

## 第2章

### アンケート結果の分析

## 「地域活動や人とのつながりづくり」に関するアンケート調査(概要)

### 1 調査目的

都筑区に転入された方の「地域活動や人とのつながりづくり」に関する意識を調査することで、自治会町内会活動をはじめとする地域の活性化やより良い区政運営に生かすことを目的に実施。3つのターゲット「若い世代」、「単身者」、「集合住宅(賃貸)」の意識やニーズを探るため、「年代」、「同居人の有無」、「居住形態」別の集計を行いました。

### 2 実施概要

実施期間 令和4年6月6日(月)～10月31日(月)

調査対象 都筑区内への転入の手続きに来た人

調査方法 都筑区役所戸籍課窓口でのアンケート配布  
ボックス及び地域振興課窓口での回収

調査内容 調査票別添(61頁～64頁)

### 3 回収結果

配布数:699票

総回収数:464票

有効回収数:464票

有効回収率:66.4%

### 4 報告書の見方

- ① グラフに表記される「n=\*」(\*は数字)は、対象の母数を表す。
- ② グラフや表の中での選択肢の文章が長い場合は、簡略化して表現しているため、アンケート調査票の文章とは一致していない場合がある。

## 属性別の回答数

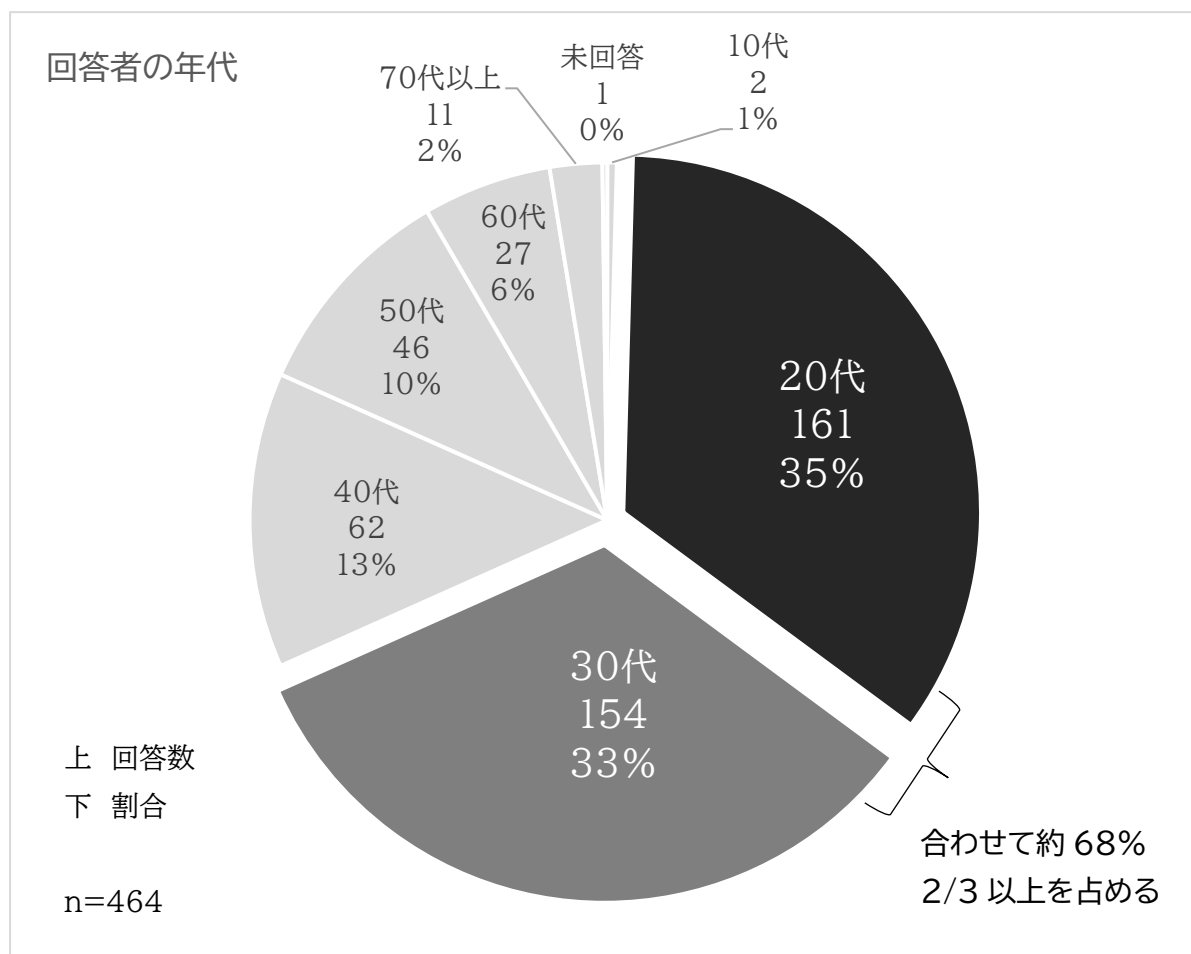
年代	回答数
10代	2
20代	161
30代	154
40代	62
50代	46
60代	27
70代以上	11
未回答	1

同居人の有無	回答数
なし	132
あり	329
未回答	3

居住形態	回答数
一戸建て住宅	29
集合住宅(持ち家)	56
集合住宅(賃貸)	378
未回答	1

## 1. 回答者について

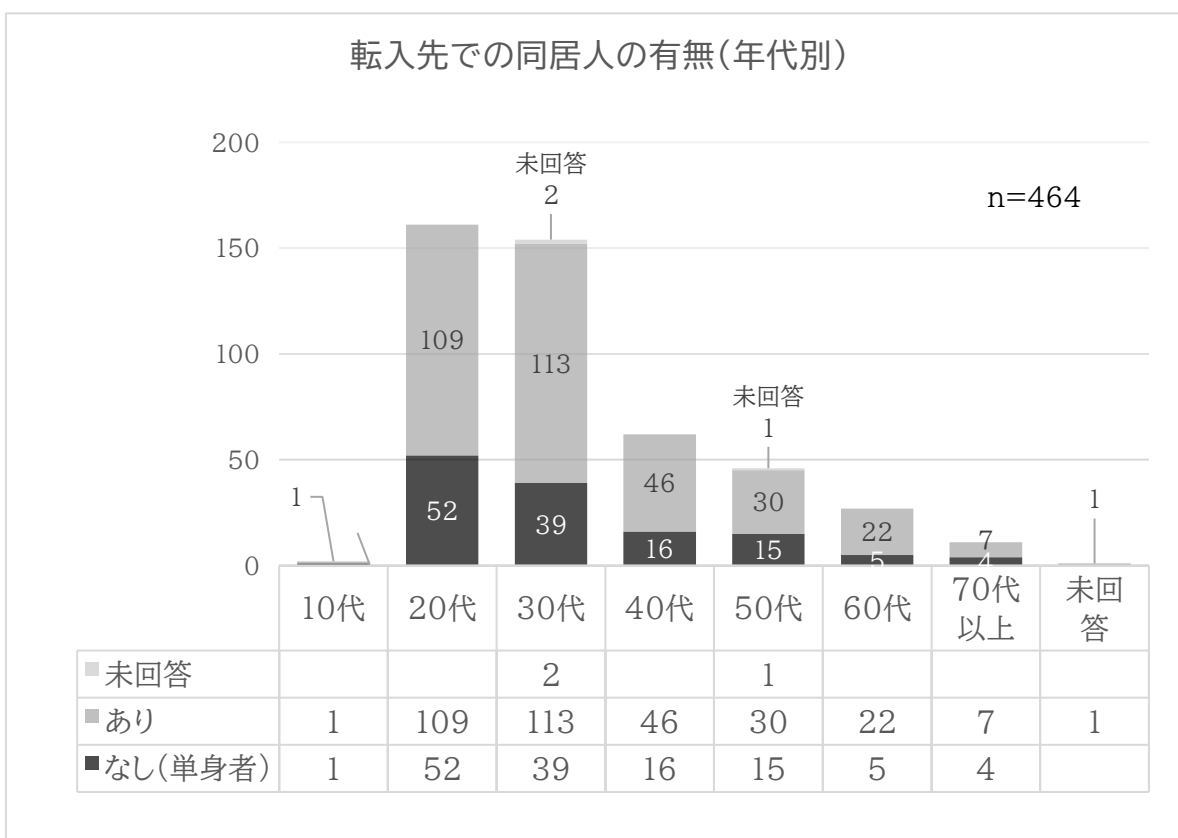
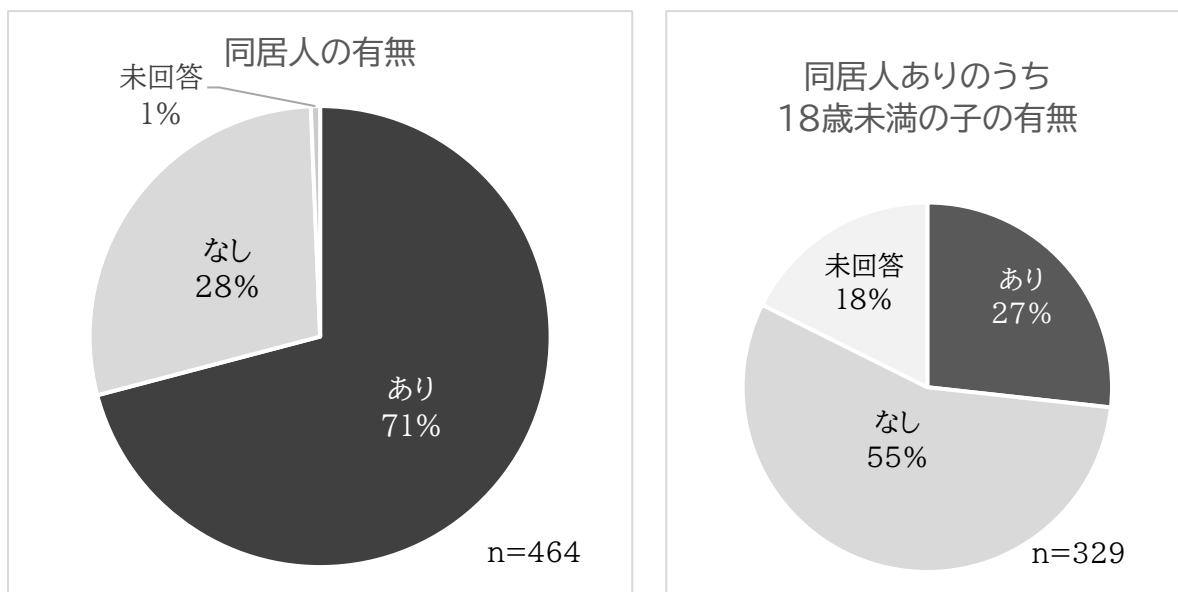
## (1)回答者の年代について



今回の調査では回答者の約 68%、全体の3分の 2 以上を20代、30代が占めました。  
この年代は都筑区の転入者の比率でもボリュームゾーンであると同時に自治会・町内会の加入率が低い年代でもあります。

尚、今回、40代以上についてはサンプル数が少ないため、あくまで参考データの範囲に留まります。

(2)各年代における同居人の有無について

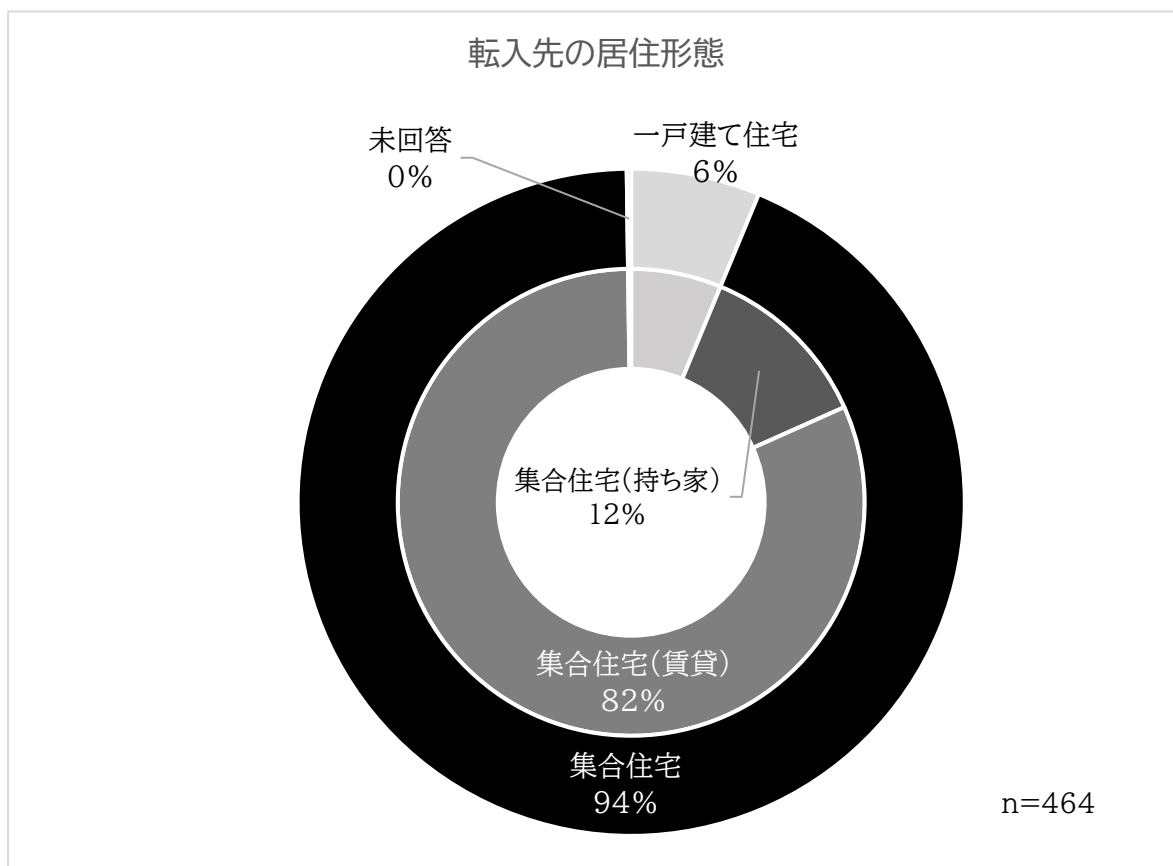


回答者における同居人の有無は、「あり」約7割、「なし」約3割で、年代別では「なし」の比率が20代と50代で32%前後とやや高くなっていますが、年代でそれほど大きな比率の差は見られません。

但し、晩婚化が進む中、まだ若い20代の未婚率が他の世代に比べて高くなることは自然としても、50代の比率が20代同様に他の世代より高いことについては、サンプル数が少ないとはいえ、留意すべき点かもしれません。

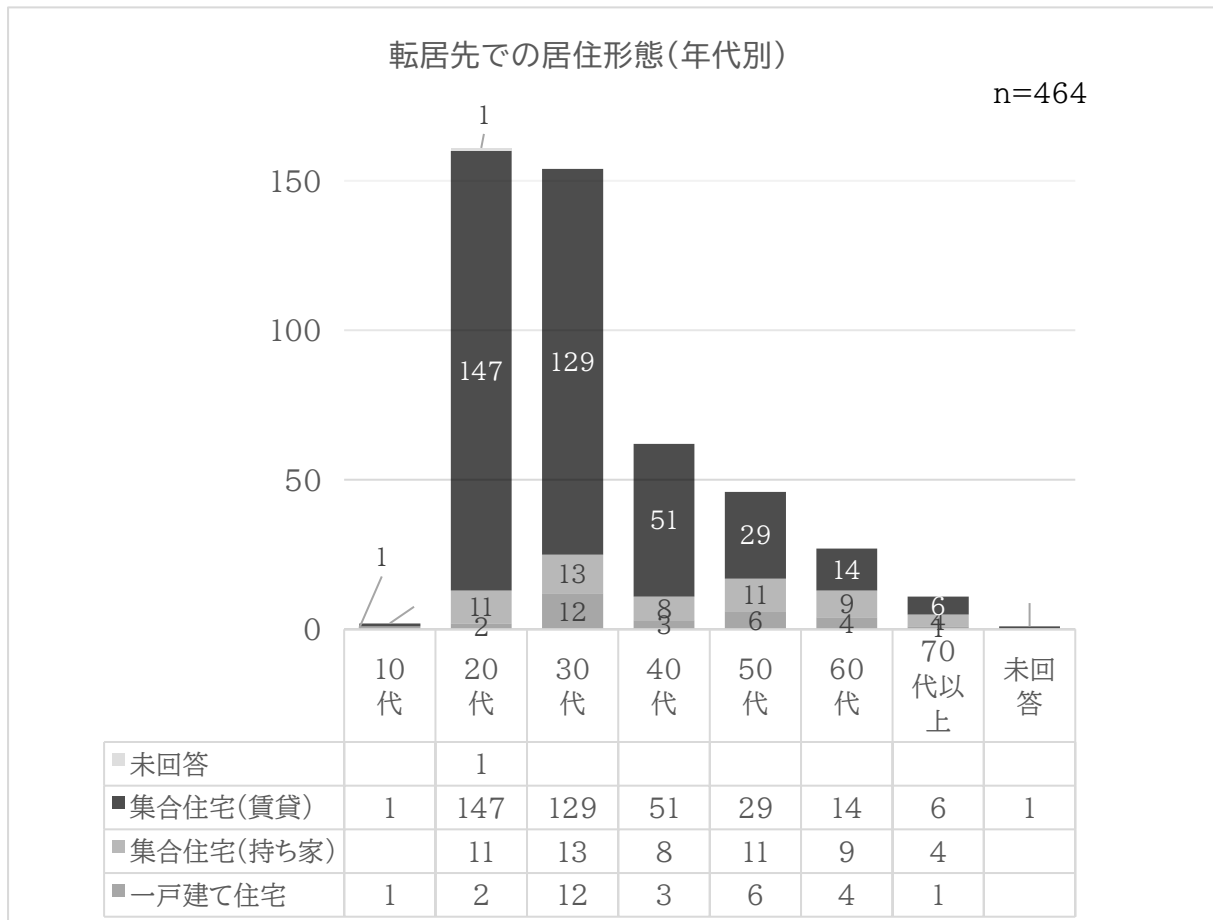
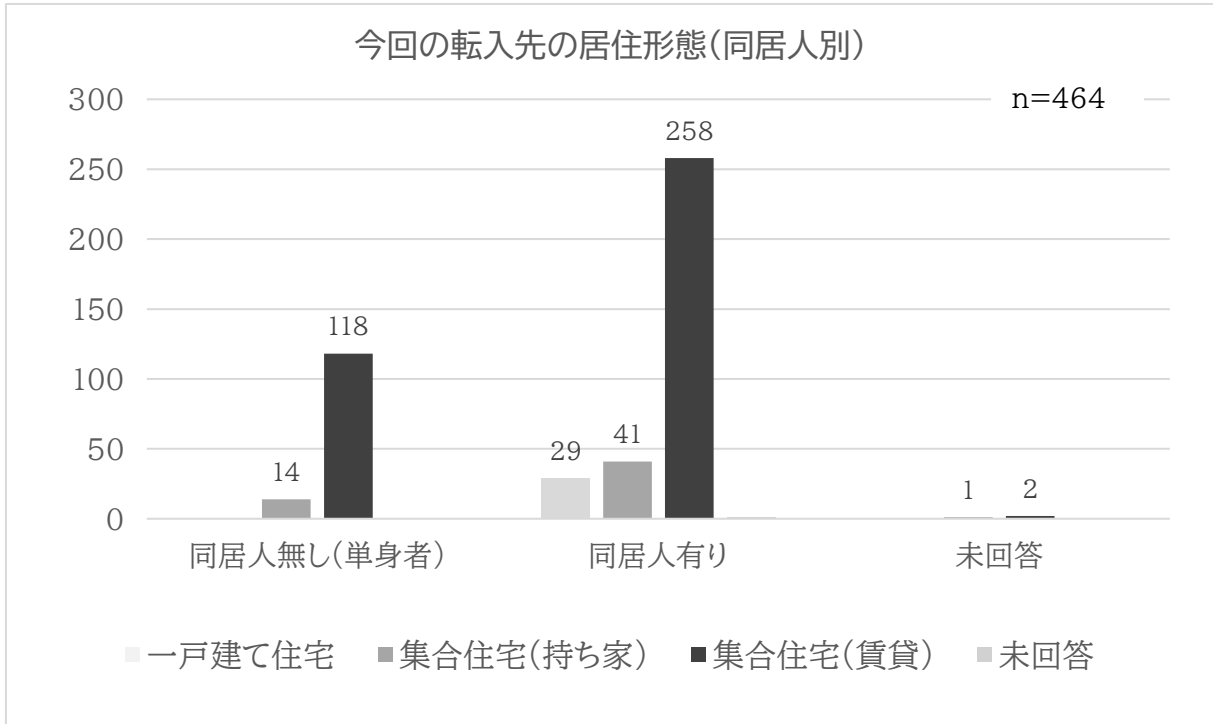
また、「同居人あり」の内訳で「18歳未満の子の有無」を見ると、「あり」は約27%で、回答者全体では約19%を占めます。ただ今回は未回答の比率が約2割と高く、これも参考データの範囲を出ません。

### (3) 居住形態について

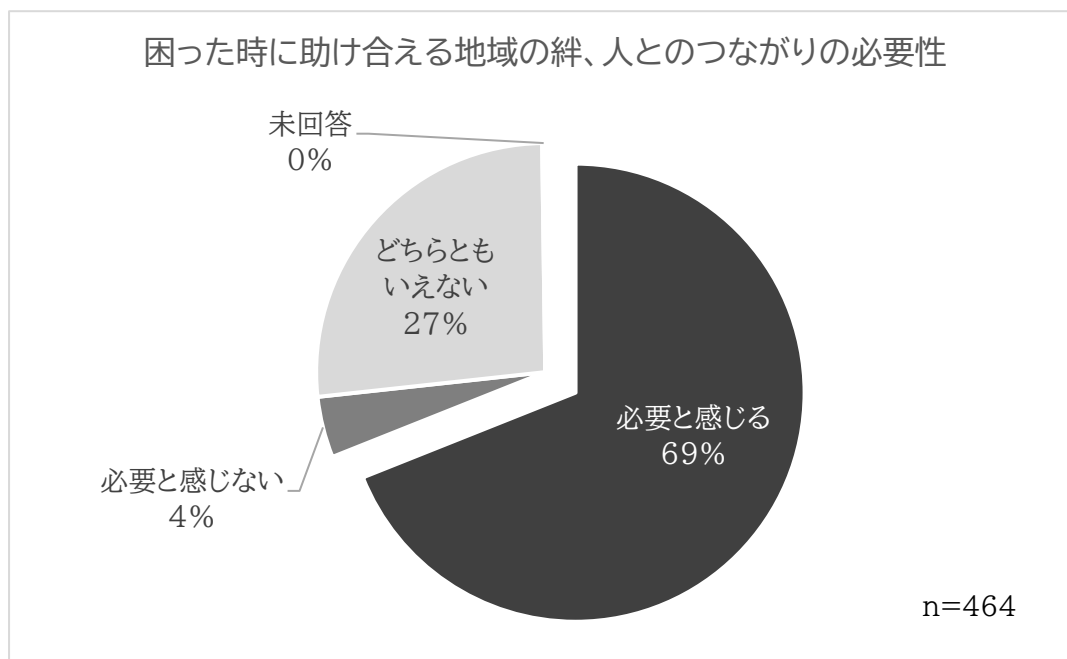


回答者の転居先の居住形態を見ると、「集合住宅」が9割以上となりました。中でも「集合住宅(賃貸)」の比率は8割超という高い比率を示しています。

居住形態に関しては世代を問わず、「集合住宅(賃貸)」の比率が高く、20代では9割を超えています。同居人の有無による差はほとんど見られません。



## 2. 困った時に助け合える地域の絆、人とのつながりの必要性について



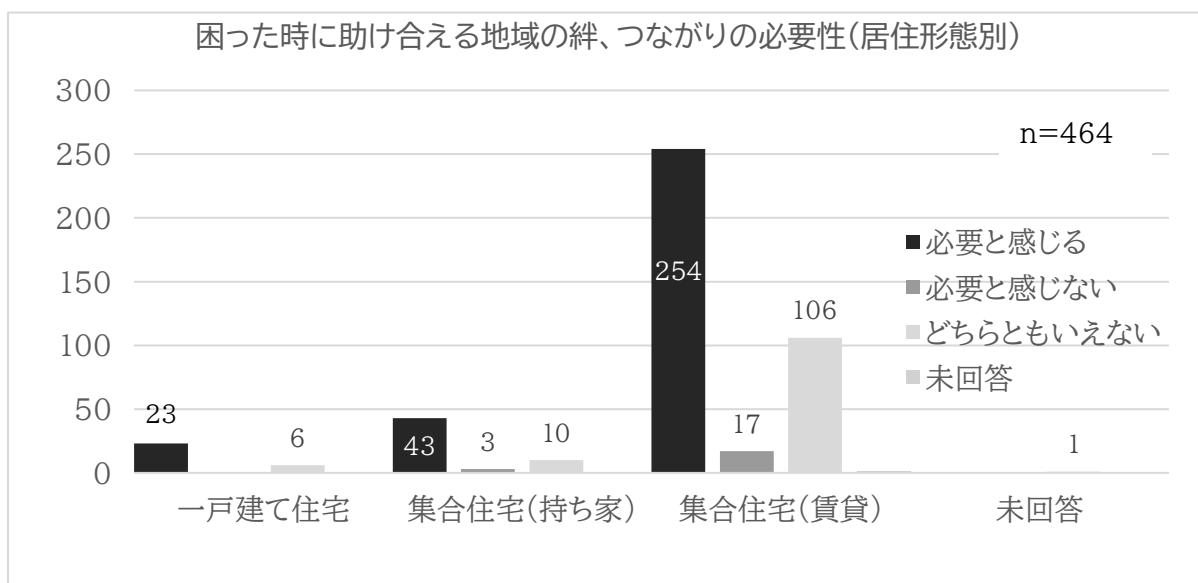
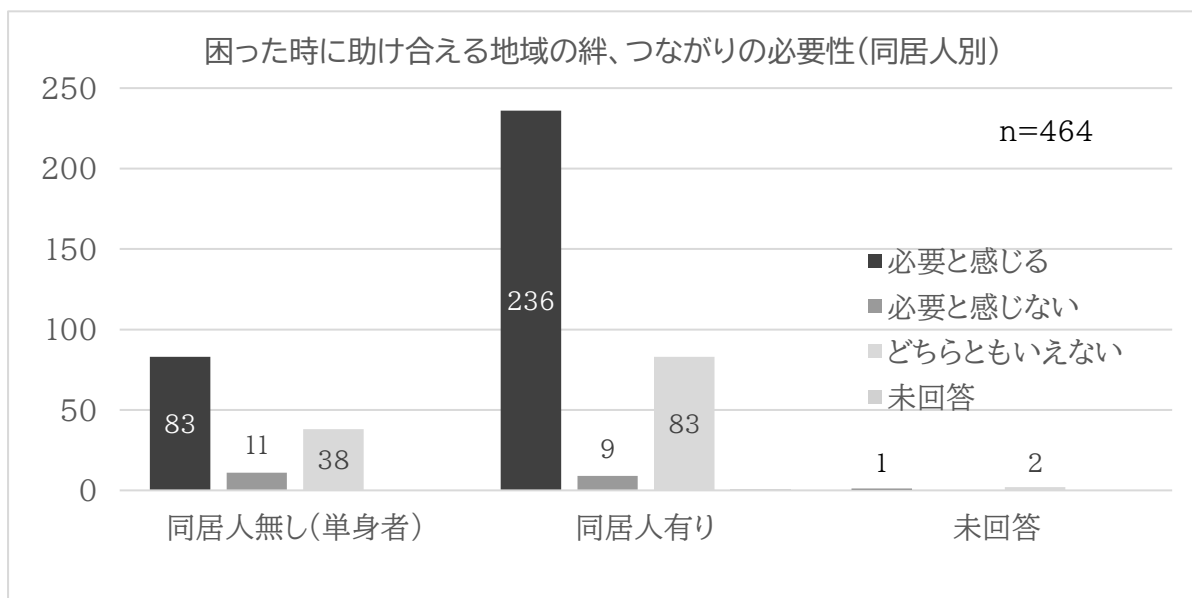
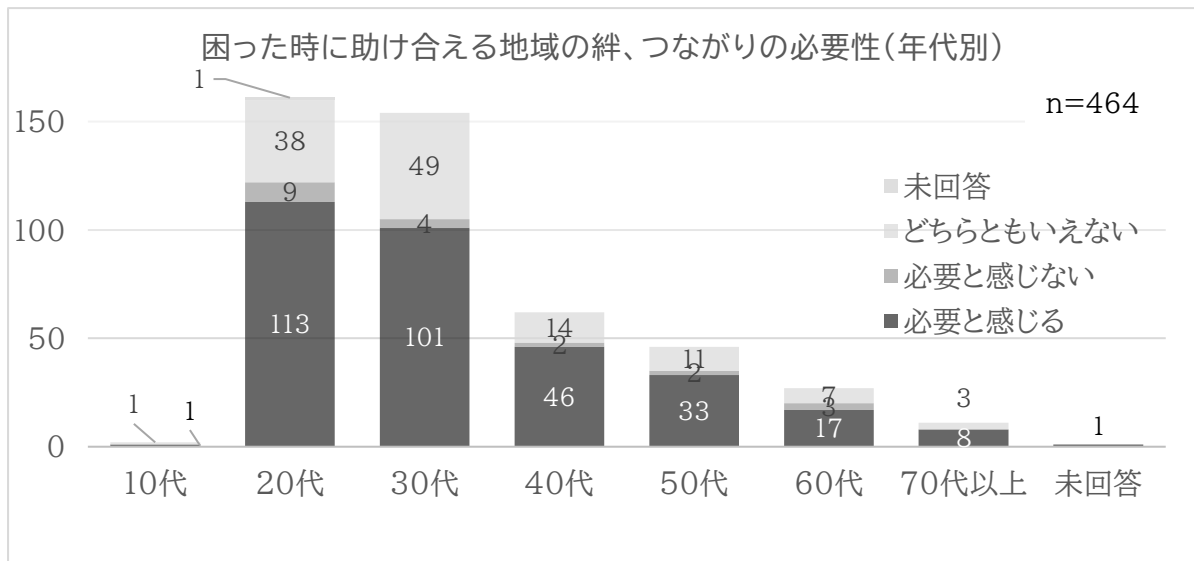
「困った時に助け合える地域の絆、人とのつながりの必要性を感じるか」との設問には、約7割が「必要と感じる」と回答。

年代別では、「20代」は回答者161人中、113人(約70%)、「30代」は154人中101人(約66%)で、年代による差は大きくありません。

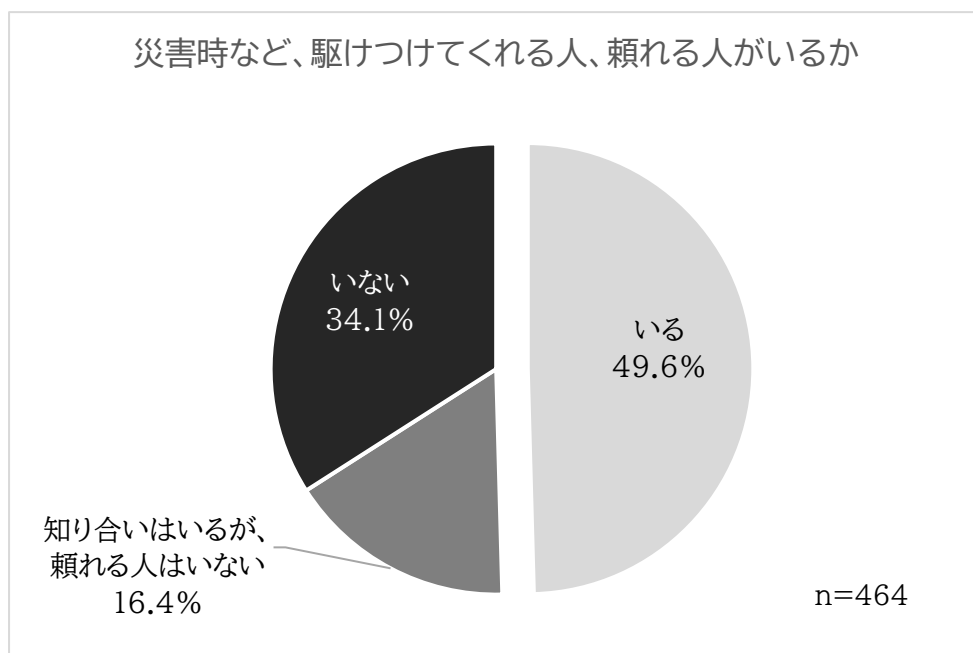
同居人の有無では、「あり」は329人中236人(約72%)対し、「なし」は132人中83人(約63%)とやや開きがあります。

居住形態では、「一戸建て住宅」は29人中23人(約79%)、「集合住宅(持ち家)」は56人中43人(約77%)に対し、「集合住宅(賃貸)」は378人中254人(約67%)とやや低くなっていますが、いずれにおいても6割超の人が「困った時に助け合える地域の絆、人とのつながりの必要性」を感じており、年代、同居人の有無、居住形態を問わず、高い関心を寄せており、潜在ニーズを示す結果となっています。





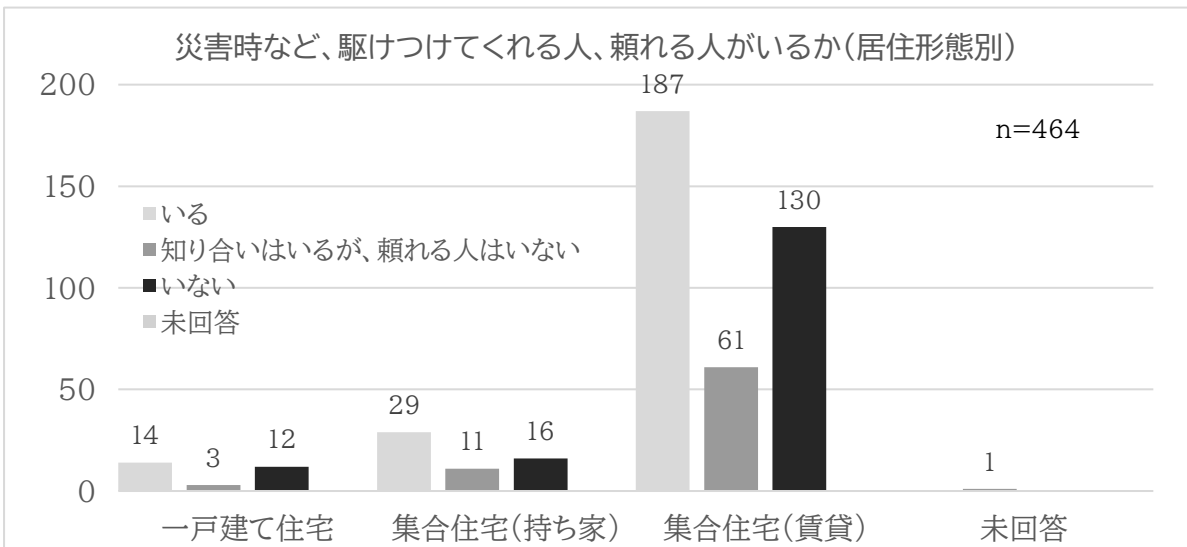
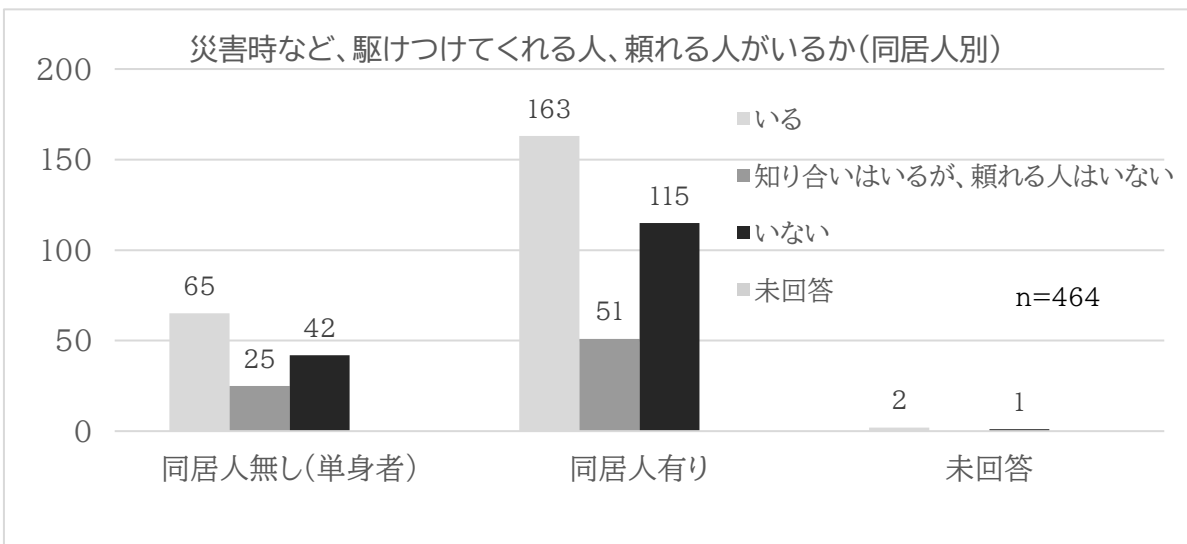
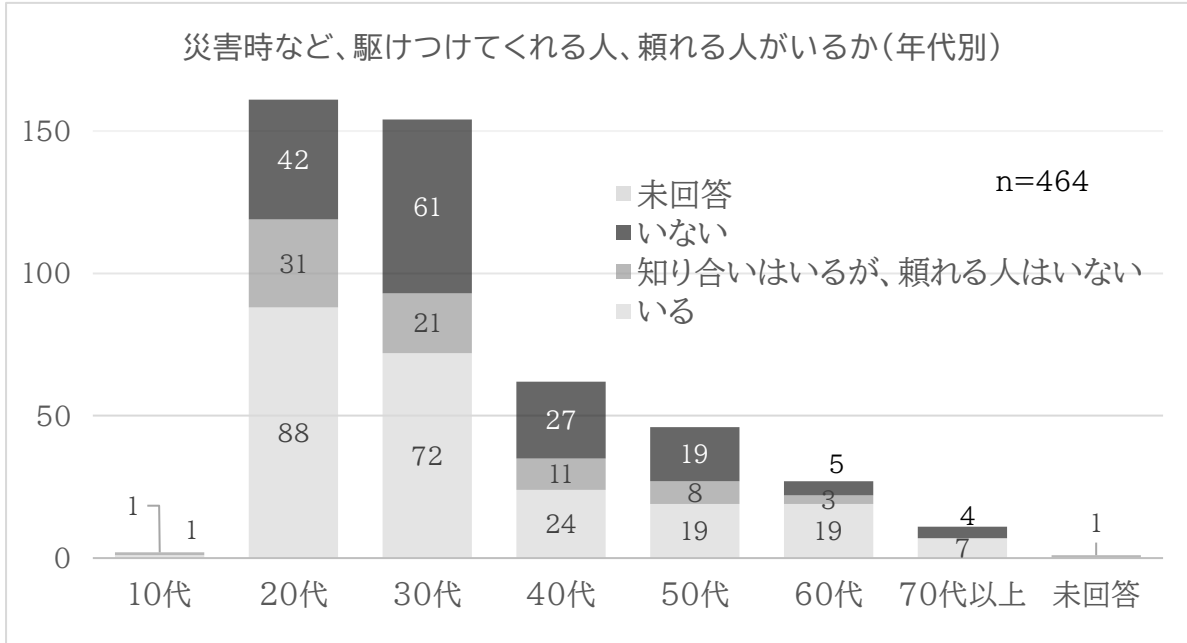
## 3.災害時など、いざという時にすぐに駆けつけてくれる人、頼れる人が近くにいるかについて



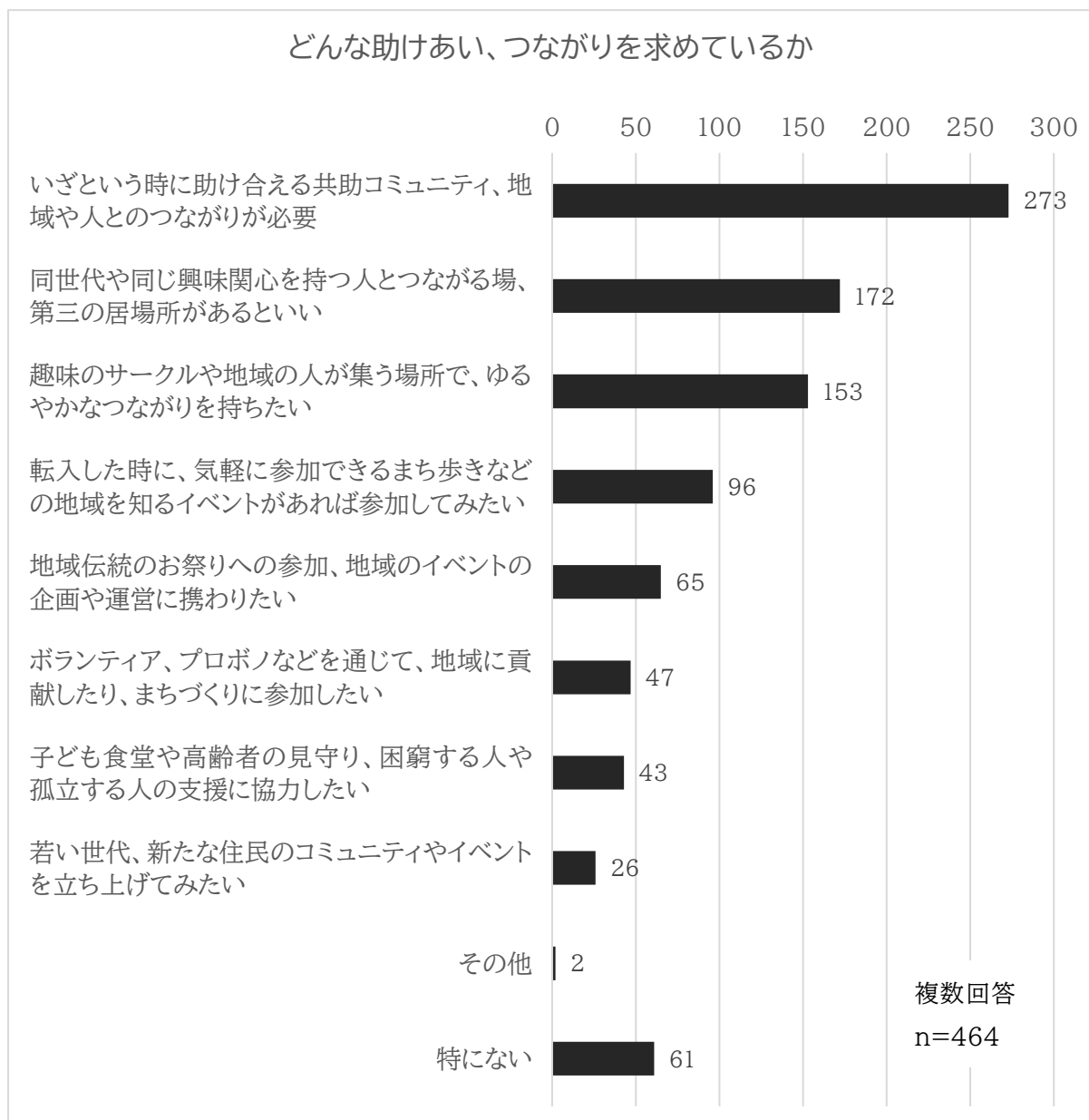
「災害時など、いざという時にすぐに駆けつけてくれる人、頼れる人が近くにいるか」との設問に、「いる」は半数に満たず、「知り合いはいるが、頼れる人はいない」と「いない」を合わせると僅かながら「いる」を上回る結果となりました。

年代では、20代で「いる」は161人中88人(約55%)で意外にも他の世代に比べてやや高く、30%台の40代、40%台の30代・50代が全体の数字を押し下げているかたちとなりました。

同居人の有無や居住形態で大きな差は見られません。



## 4.どんな助け合い、つながりを求めているかについて



「あなたはどんな助けあい、つながりを求めているか」との設問には、「いざという時に助け合える共助コミュニティ、地域や人とのつながりが必要」が最多で約6割に上りました。

次いで「同世代や同じ興味関心を持つ人とつながる場、第三の居場所があるといい」が4割近く、「趣味のサークルや地域の人が集う場所で、ゆるやかなつながりを持ちたい」が3割超、「転入した時に、気軽に参加できるまち歩きなどの地域を知るイベントがあれば参加してみたい」が2割を超えました。

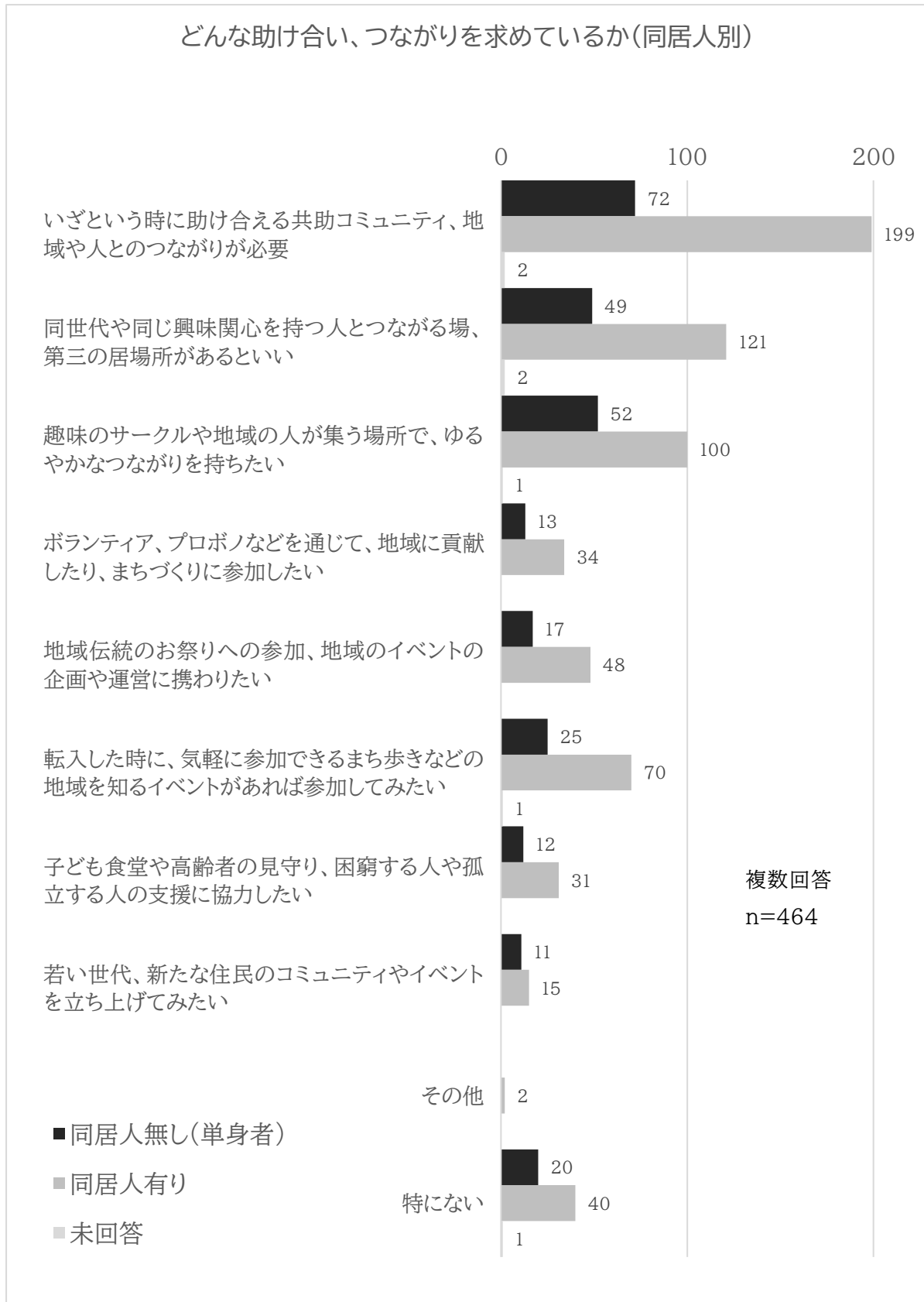
また、より積極的に地域と関わる「地域伝統のお祭りへの参加、地域のイベントの企画や運営に携わりたい」は約14%、「ボランティア、プロボノなどを通じて、地域に貢献したり、ま

ちづくりに参加したい」も1割を超え、「子ども食堂や高齢者の見守り、困窮する人や孤立する人の支援に協力したい」も1割近くありました。

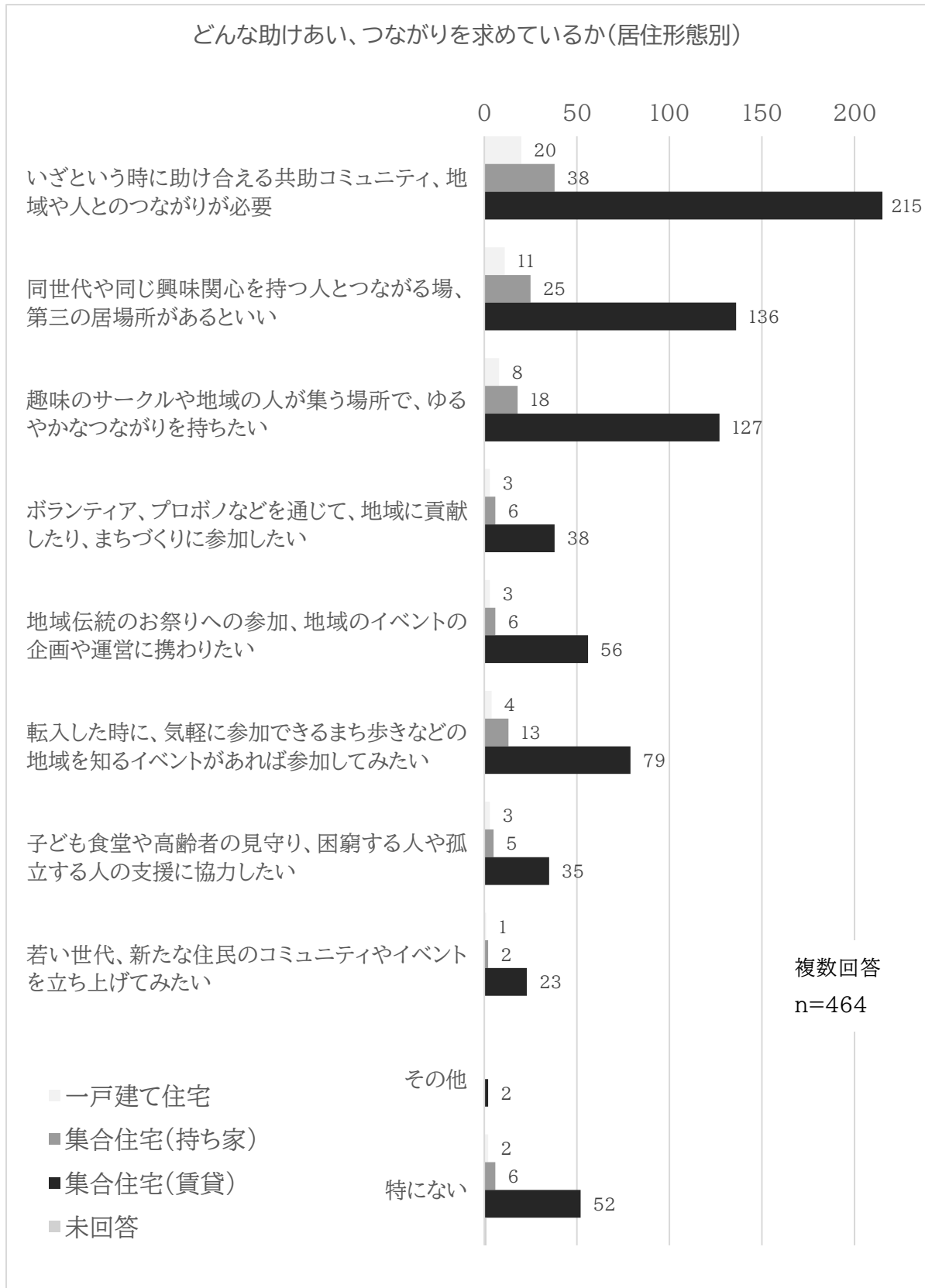
年代別の分布（複数回答）

項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	未回答
いざという時に助け合える共助コミュニティ、地域や人とのつながりが必要	1	92	84	39	33	16	8	
同世代や同じ興味関心を持つ人とつながる場、第三の居場所があるといい	1	51	61	25	18	9	6	1
趣味のサークルや地域の人が集う場所で、ゆるやかなつながりを持ちたい	1	36	53	31	18	9	5	
転入した時に、気軽に参加できるまち歩きなどの地域を知るイベントがあれば参加してみたい	1	28	30	12	10	9	6	
地域伝統のお祭りへの参加、地域のイベントの企画や運営に携わりたい		27	23	7	6	1		1
ボランティア、プロボノなどを通じて、地域に貢献したり、まちづくりに参加したい		13	14	10	7	2		1
子ども食堂や高齢者の見守り、困窮する人や孤立する人の支援に協力したい		17	11	7	5	2	1	
若い世代、新たな住民のコミュニティやイベントを立ち上げてみたい		16	8	2				
その他			2					
特にない		29	17	5	4	6		
総計	4	309	303	138	101	54	26	3

自治会・町内会の加入率が低い若い世代においても地域の助け合いやつながりに関する潜在的なニーズは高いものが見られます。こうしたニーズに対応した団体や活動、参加の仕方があれば、若い世代と新たなつながりを作り、地域活動への参加や担い手を呼びこむきっかけとなる可能性は十分にあると考えられます。

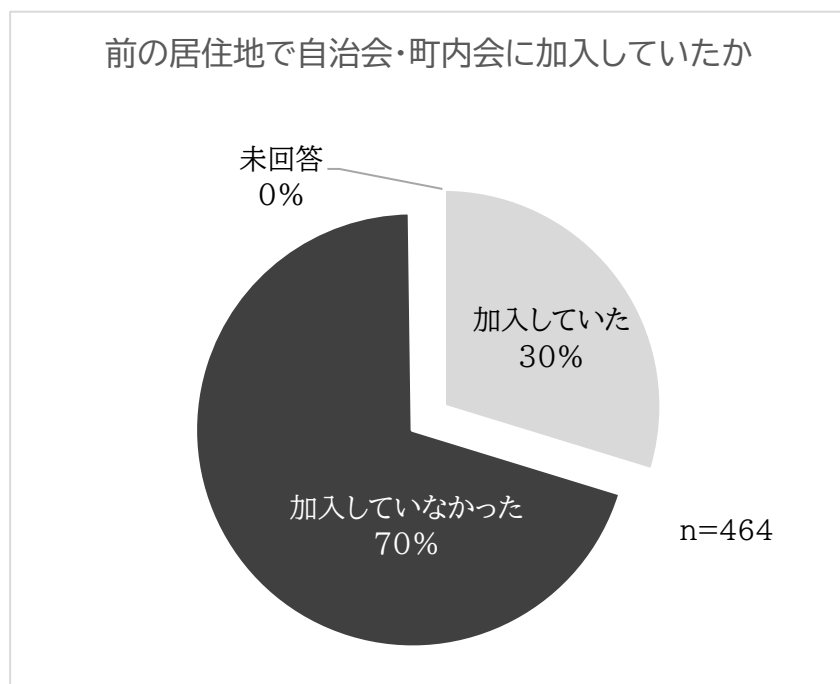


同居人の有無では、特に大きな違いは見られません。



居住形態別では、多少比率に差はあるものの、自治会・町内会の加入率が低い「集合住宅(賃貸)」においても他と同様高い関心を示しています。

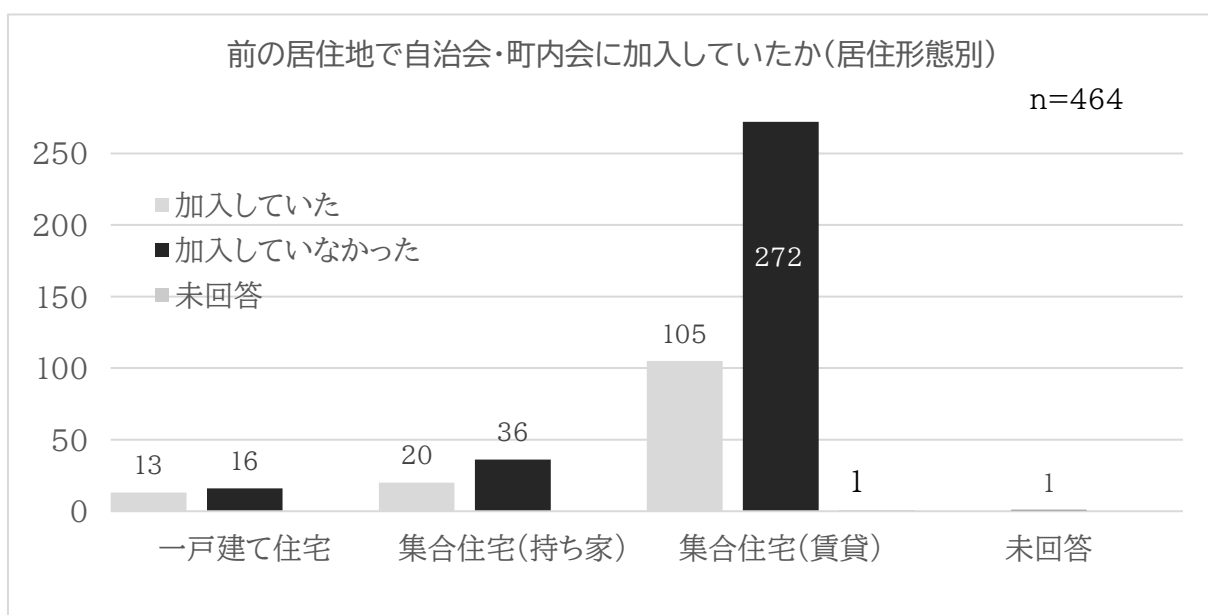
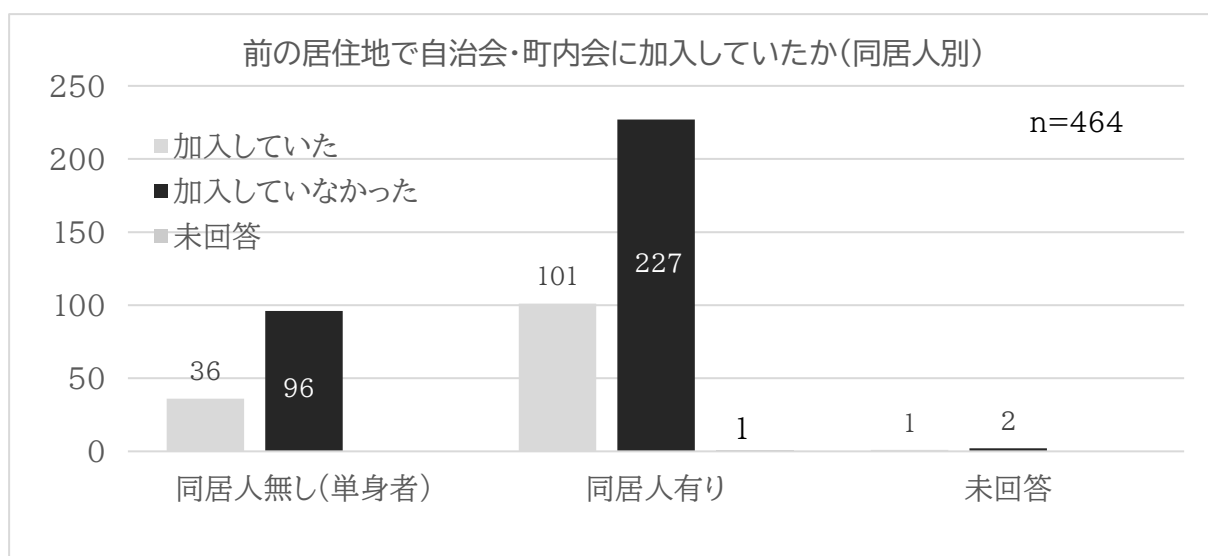
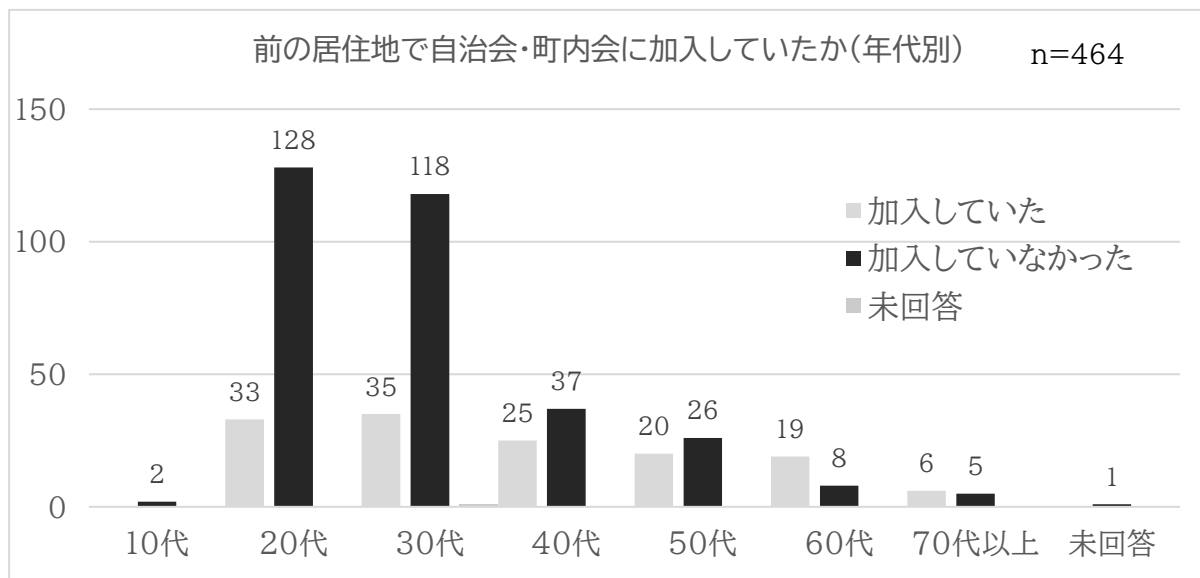
## 5. 前の居住地で自治会・町内会に加入していたかについて



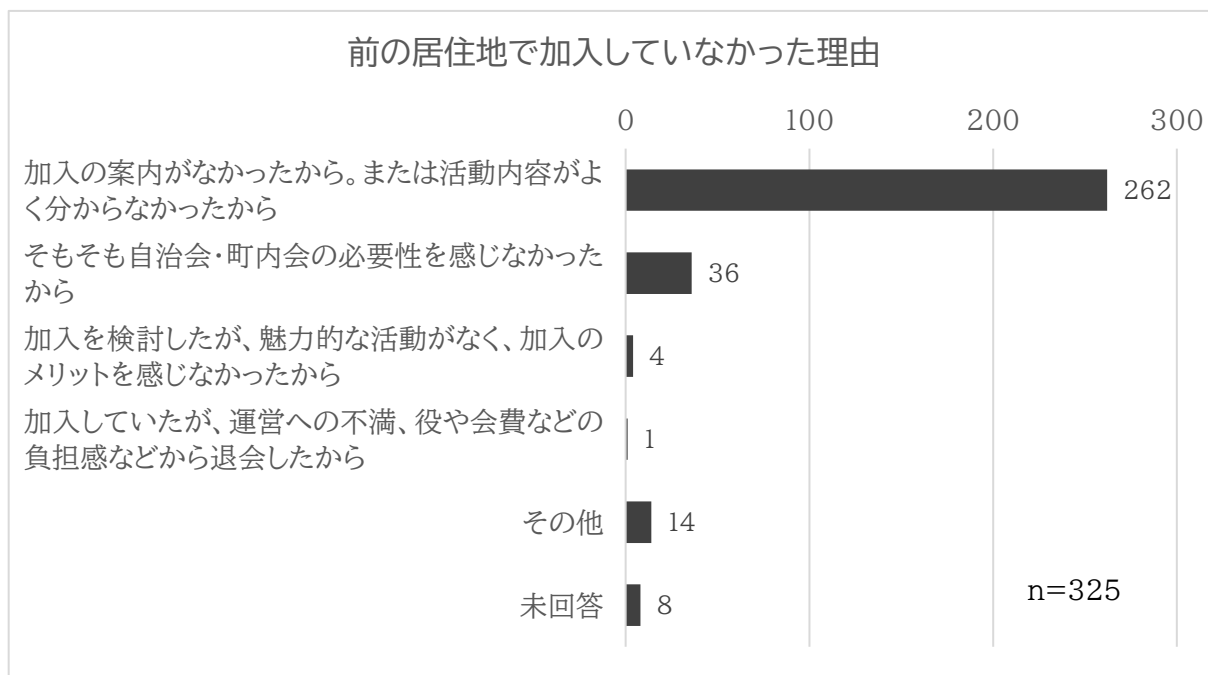
「前の居住地で自治会・町内会に加入していたか」との設問で、「加入していた」は約3割、「加入していなかった」は約7割でした。

年代では20代、30代で「加入していない」は約8割と他の年代より高くなっており、居住形態では「集合住宅(賃貸)」では7割超と他より高くなっています。同居人の有無による違いは大きくありません。





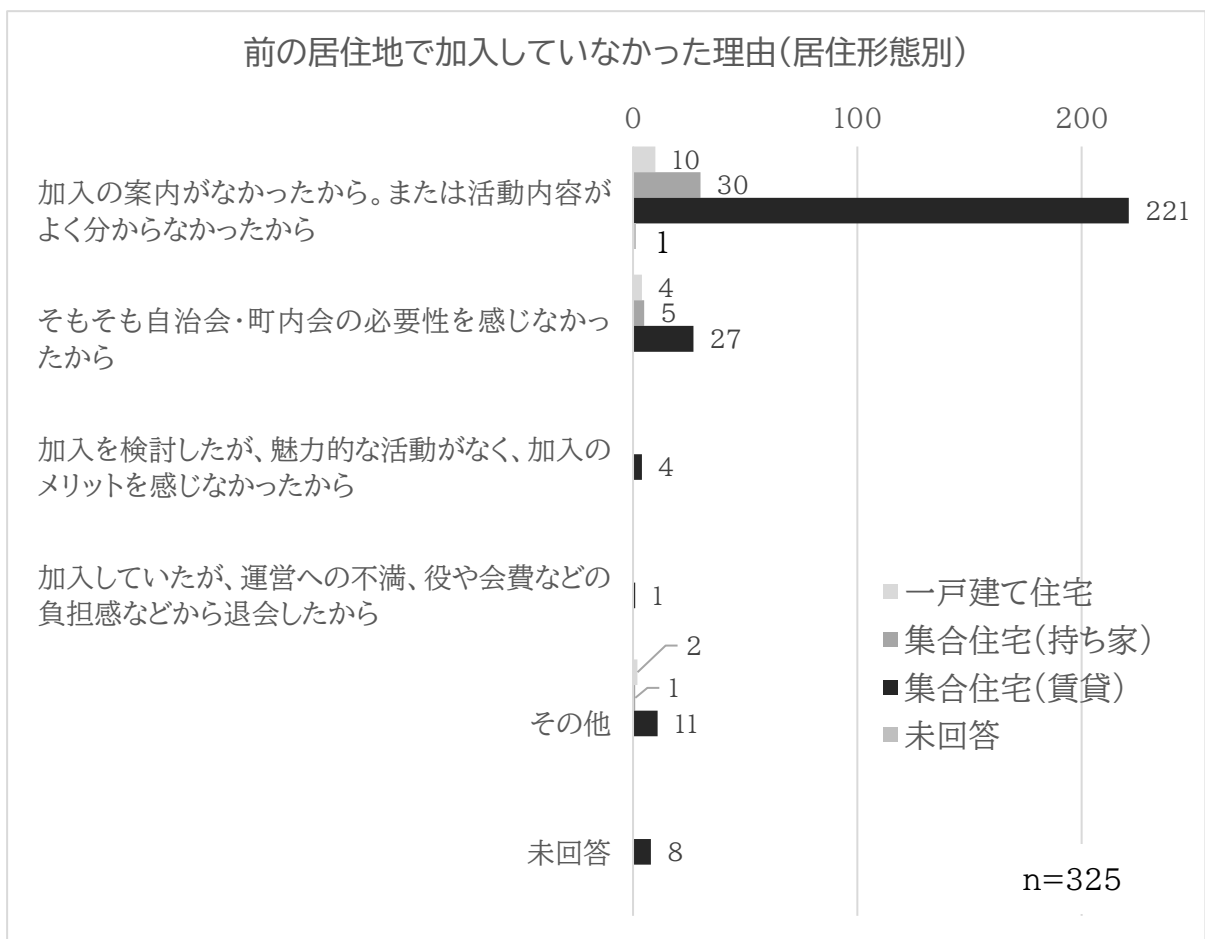
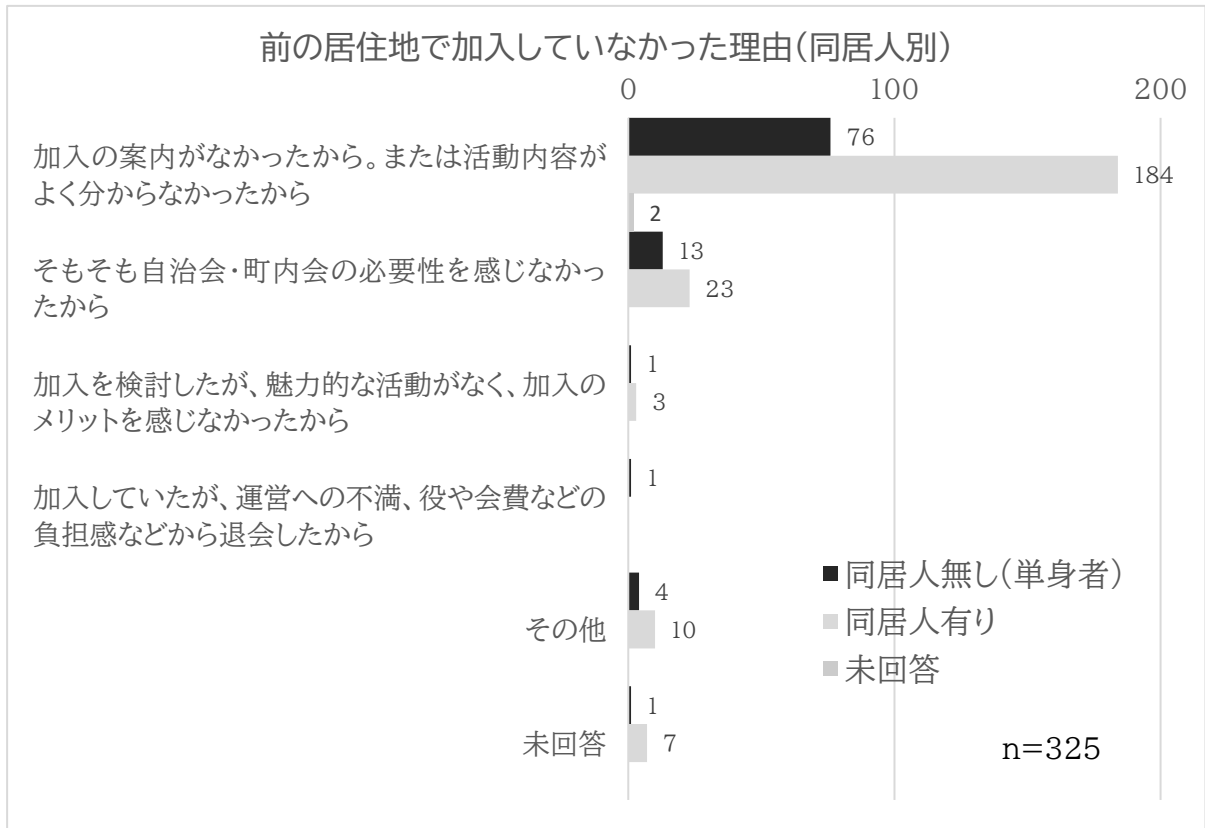
## 6.前の居住地で加入していなかった理由について



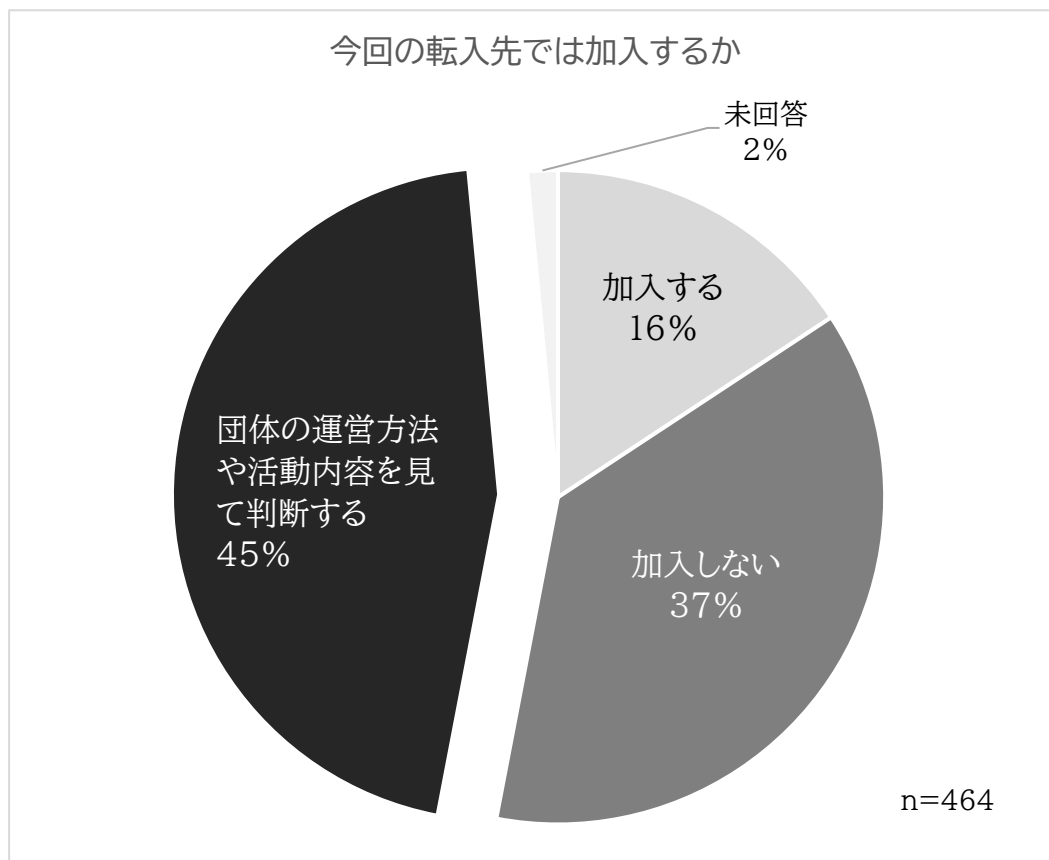
## 年代別の分布

項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	未回答
加入の案内がなかったから。または活動内容がよく分からなかったから	2	106	95	28	22	5	3	1
そもそも自治会・町内会の必要性を感じなかったから		16	11	3	1	3	2	
加入を検討したが、魅力的な活動がなく、加入のメリットを感じなかったから			1	1	2			
加入していたが、運営への不満、役や会費などの負担感などから退会したから		1						
その他		5	6	2	1			
未回答			5	3				
総計	2	128	118	37	26	8	5	1

前の居住地で自治会・町内会に加入していなかった理由は「加入の案内がなかったから。または活動内容がよく分からなかったから」で8割超という圧倒的な結果となりました。年代や同居人の有無、居住形態でも同様の結果です。

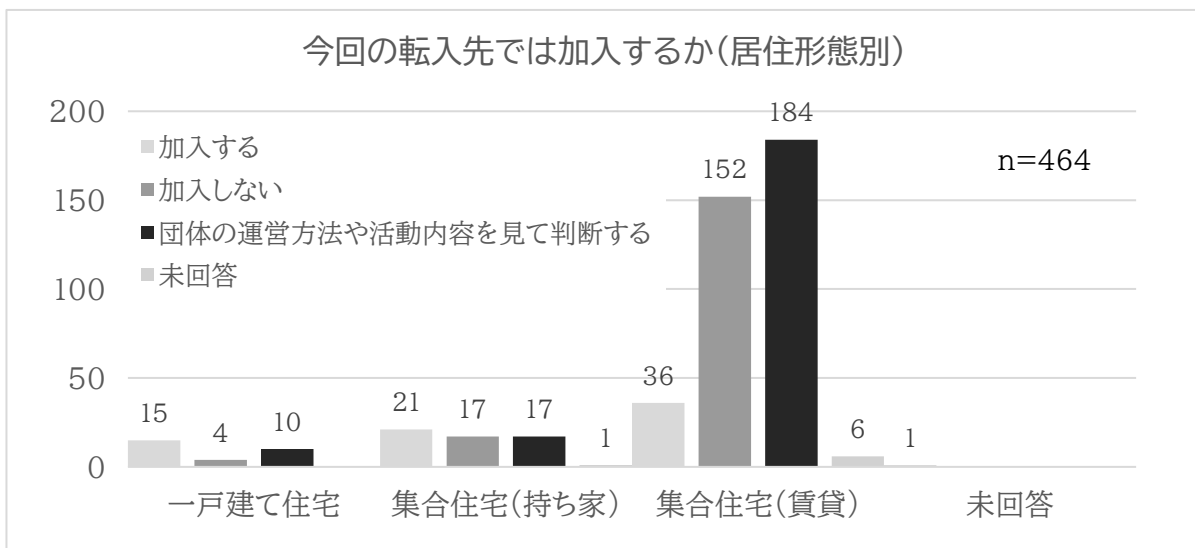
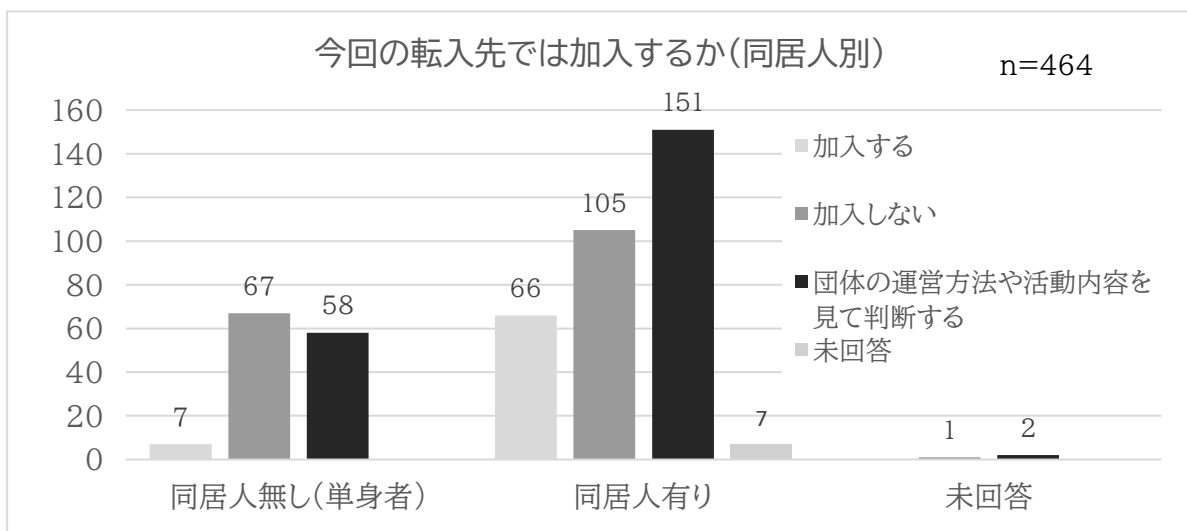
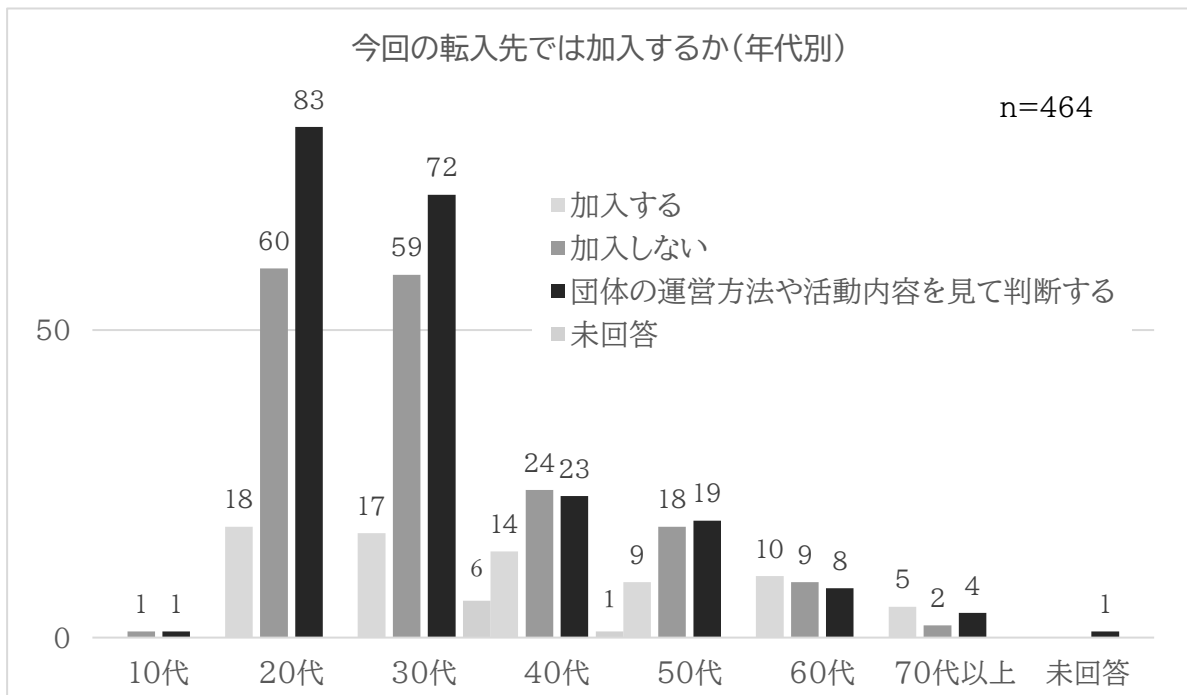


## 7. 今回の転入先で自治会・町内会に加入するかについて

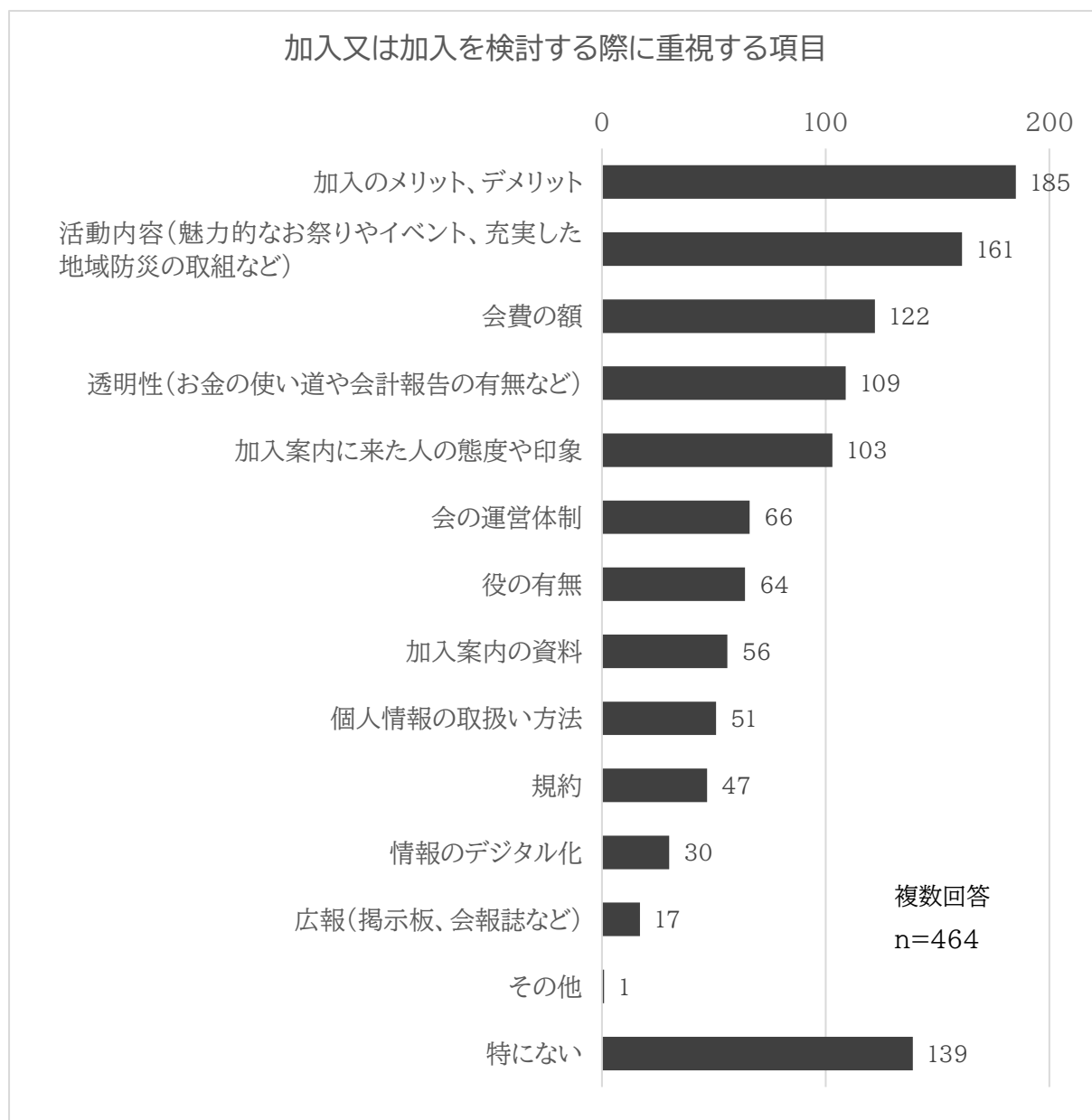


「今回の転入先で自治会・町内会に加入するか」との設問で、「加入する」は約 16%、「加入しない」は約 37%となり、加入しないが20ポイント高くなりました。一方、最多は「団体の運営方法や活動内容を見て判断する」は約 45%でした。

「団体の運営方法や活動内容を見て判断する」に関しては 20 代、30代、集合住宅(賃貸)においても最多となっています。



## 8. 自治会・町内会に加入、または加入を検討する際、重視する項目について



「自治会・町内会への加入、または加入を検討する際に重視する項目」についての設問で、最多は「加入のメリット、デメリット」で約4割、次いで「活動内容」の約35%となっています。

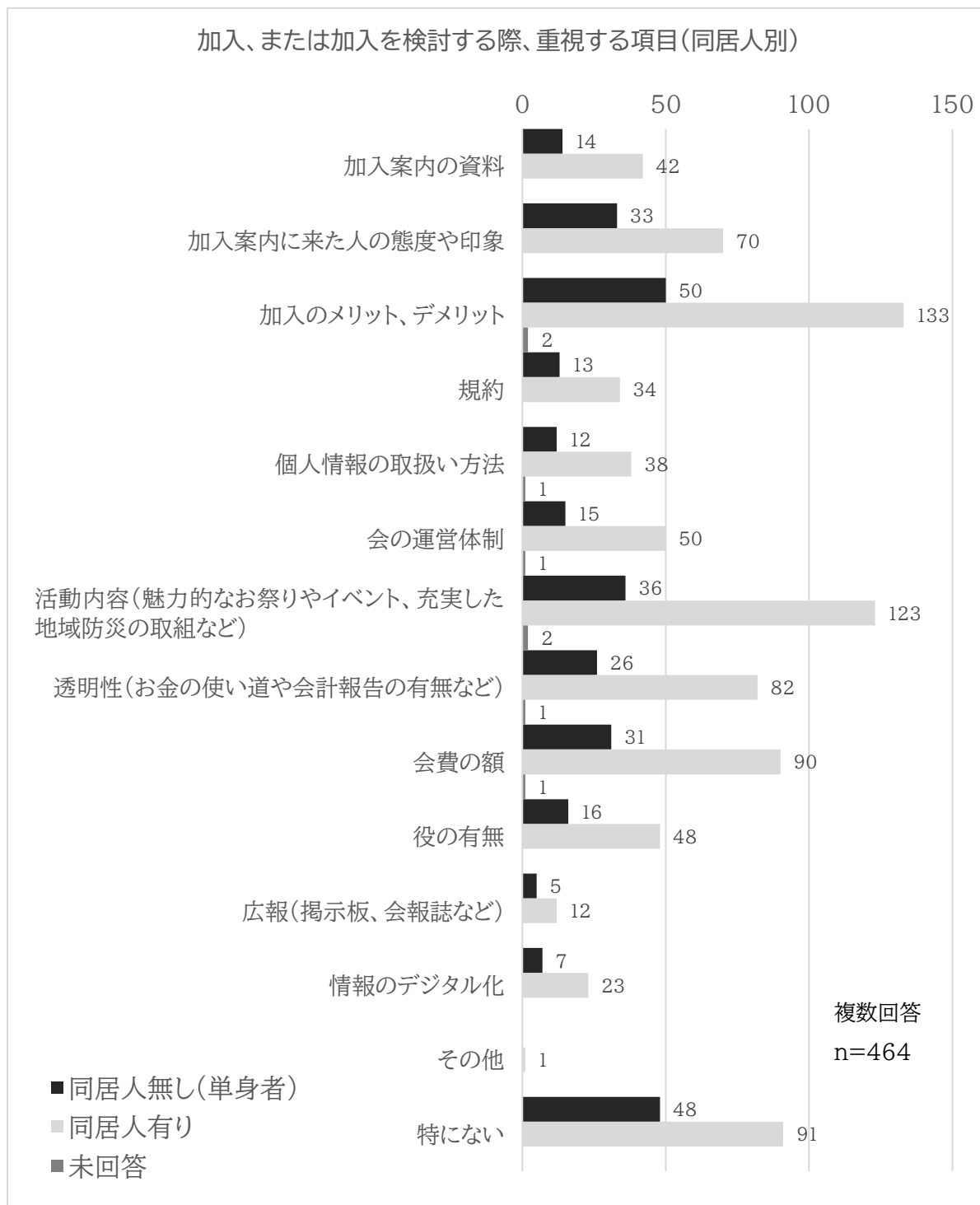
具体項目としては「会費の額」や「透明性」、「会の運営体制」、「役の有無」、「個人情報の取り扱い方法」、「規約」、「加入案内の資料」など、運営のあり方に関心が集まっています。

興味深いのは、「加入に来た人の態度や印象」を2割超の人が上げており、こうした部分で加入が左右されることも大いにあり得ることを自治会・町内会でも認識し、ニーズに沿った提案やアプローチをする必要があるといえます。

## 年代別の分布（複数回答）

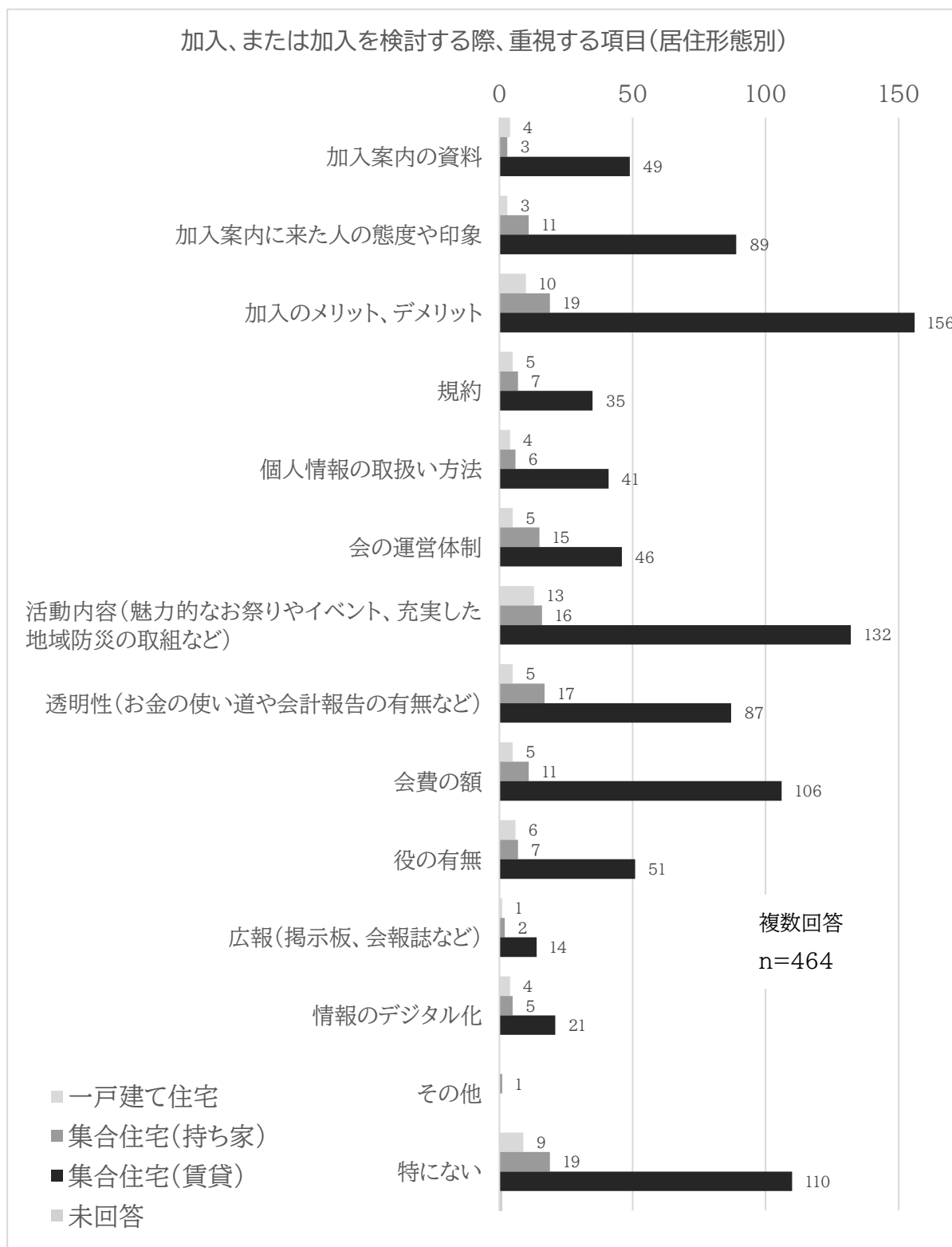
項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	未回答
加入のメリット、デメリット		66	61	27	21	7	3	
活動内容(魅力的なお祭りやイベント、充実した地域防災の取組など)	1	49	61	23	17	6	4	
会費の額		47	41	21	7	3	2	1
透明性(お金の使い道や会計報告の有無など)		34	33	27	11	3	1	
加入案内に来た人の態度や印象		30	37	22	10	4		
会の運営体制	1	14	21	13	12	4	1	
役の有無		16	21	11	9	5	1	1
加入案内の資料		24	16	4	7	3	1	1
個人情報の取扱い方法		10	15	11	7	6	1	1
規約	1	13	14	6	9	4		
情報のデジタル化		11	8	5	4	2		
広報(掲示板、会報誌など)		5		7	3	2		
その他						1		
特になし	1	61	42	12	14	5	4	
総計	4	380	370	189	131	55	18	4

年代別では、多くの世代で「加入のメリット、デメリット」や「活動内容」が上位に上がってきていますが、その他で高い項目としては20代と30代では「会費の額」、40代では「透明性」、50代では「会の運営体制」、60代では「個人情報の取扱い方法」となっています。



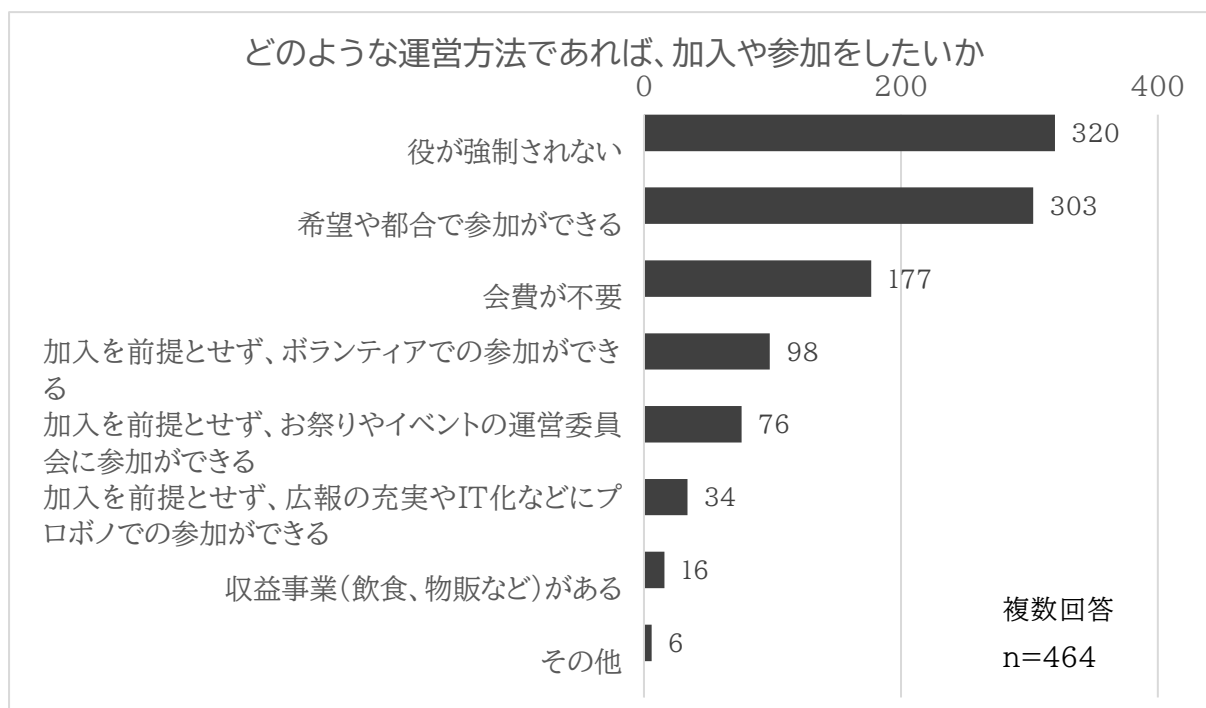
同居人の有無では、「あり」も「なし」も1位は「加入のメリット、デメリット」、次いで「活動内容」となっていますが、3番目に高い項目では、「あり」は「会費の額」に対し、「なし」は「加入案内に来た人の態度や印象」となっています。





居住形態では、自治会・町内会の加入率が低い「集合住宅(賃貸)」でも最多は「加入のメリット、デメリット」で、次いで「活動内容」、「会費の額」、「加入案内に来た人の態度や印象」となりました。

## 9.どのような自治会・町内会の運営方法であれば、加入や参加をしたいかについて



## 年代別の分布（複数回答）

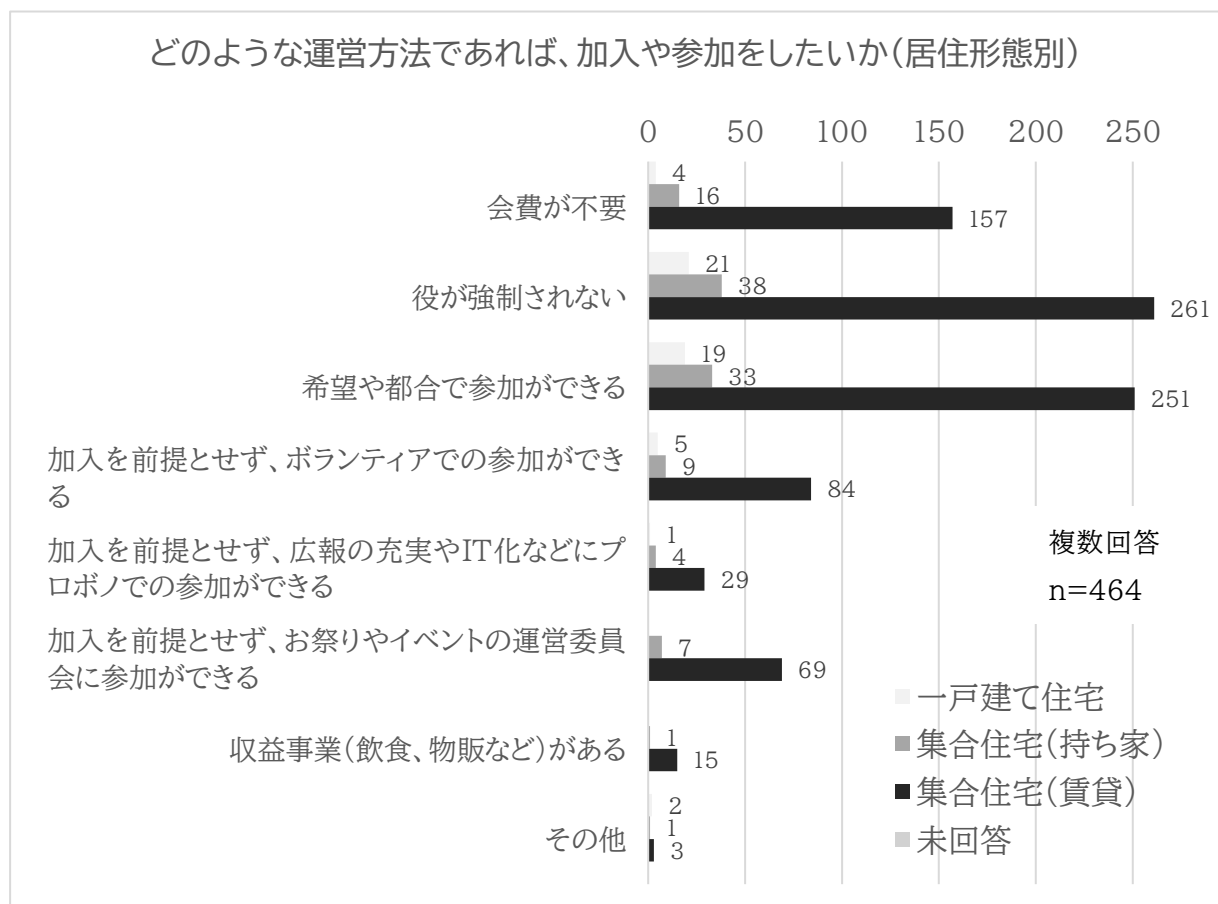
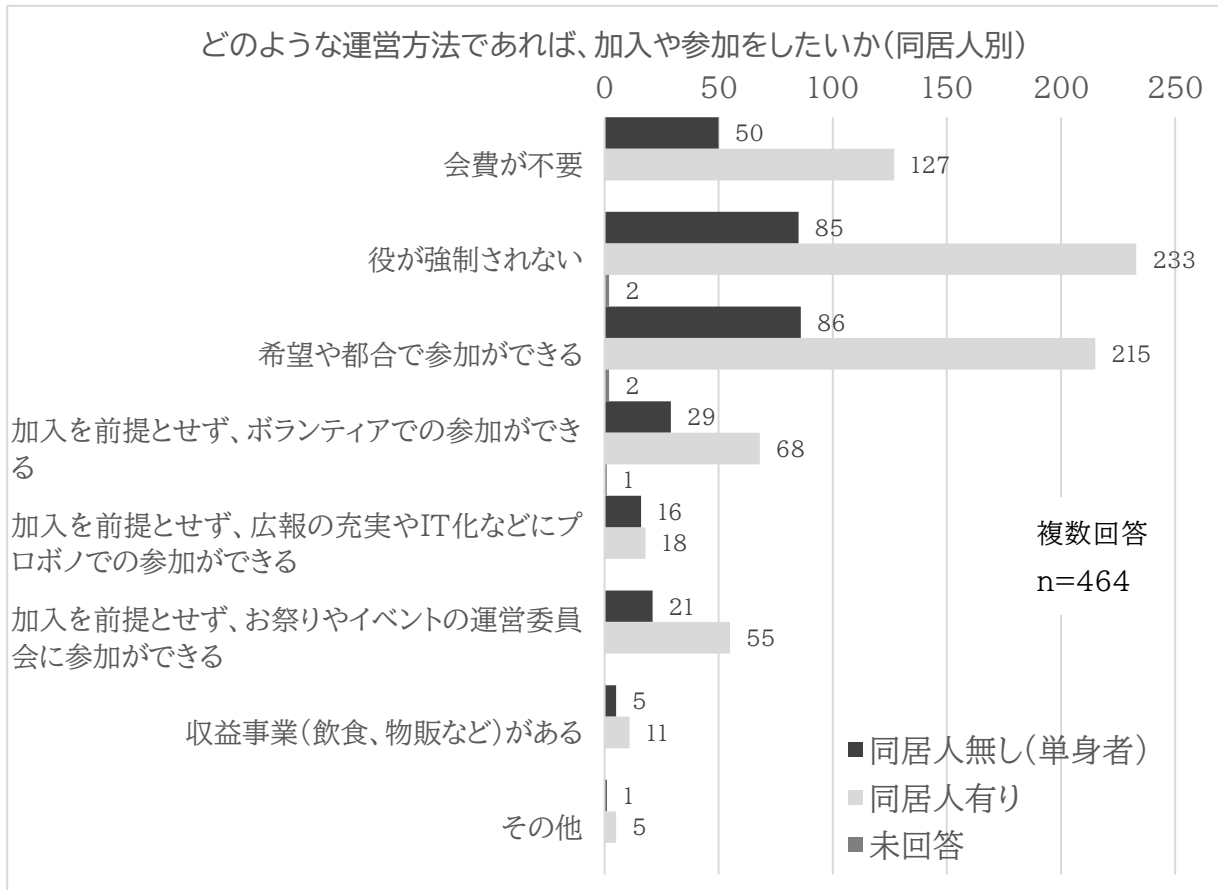
項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	未回答
役が強制されない	2	107	111	39	36	17	7	1
希望や都合で参加ができる	2	106	100	44	29	14	7	1
会費が不要	1	80	59	19	11	5	2	
加入を前提とせず、ボランティアでの参加ができる	1	31	34	11	13	5	2	1
加入を前提とせず、お祭りやイベントの運営委員会に参加ができる		30	25	9	6	5		1
加入を前提とせず、広報の充実やIT化などにプロボノでの参加ができる		12	12	3	3	3		1
収益事業(飲食、物販など)がある		9	5	2				
その他			4	1		1		
総計	6	375	350	128	98	50	18	5

「どのような自治会・町内会の運営方法であれば、加入や参加をしたいか」との設問で、最多は「役が強制されない」で約69%、次いで「希望や都合で参加できる」の約65%、「会費が不要」の約4割となりました。

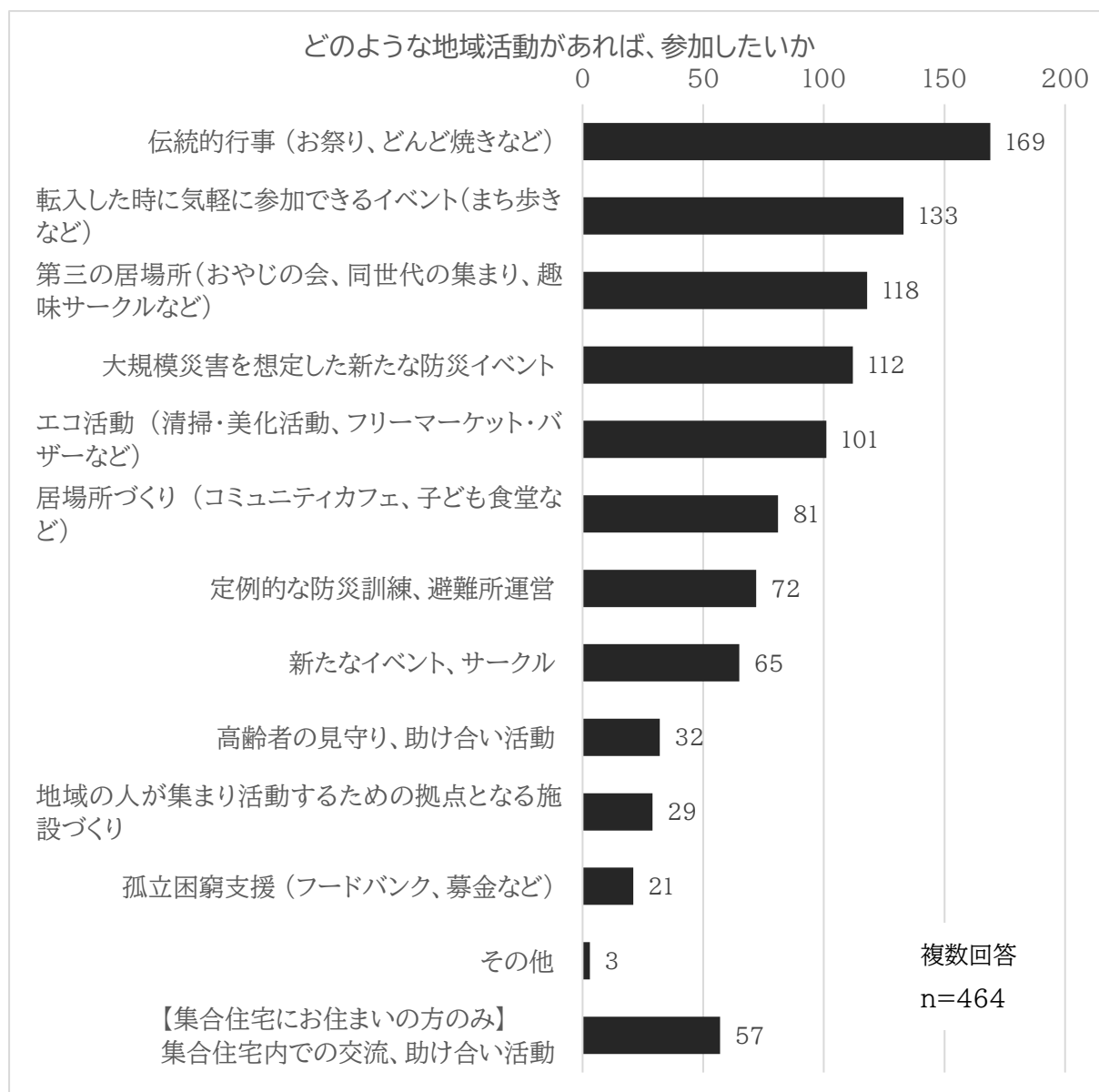
役を強制されるのではなく、希望や都合で参加できるに関連した項目としては、加入を前提としない参加方法として「ボランティア」が2割超、「運営委員会」が約16%、「プロボノ」が約7%となり、加入にこだわることでむしろ担い手を遠ざけてしまう可能性があることも自治会・町内会において認識する必要もあるといえます。

こうした傾向は年代、同居人の有無、居住形態別でも大きな差は見られません。集合住宅(賃貸)でも加入を前提としない「ボランティア」は約2割、「運営委員会」は約15%に上っています。

興味深いのは「収益事業」に関しては20代から40代で関心を示す人が一定数あり、特に20代では5%超が関心を示しています。



## 10.どのような地域活動があれば、参加してみたいかについて



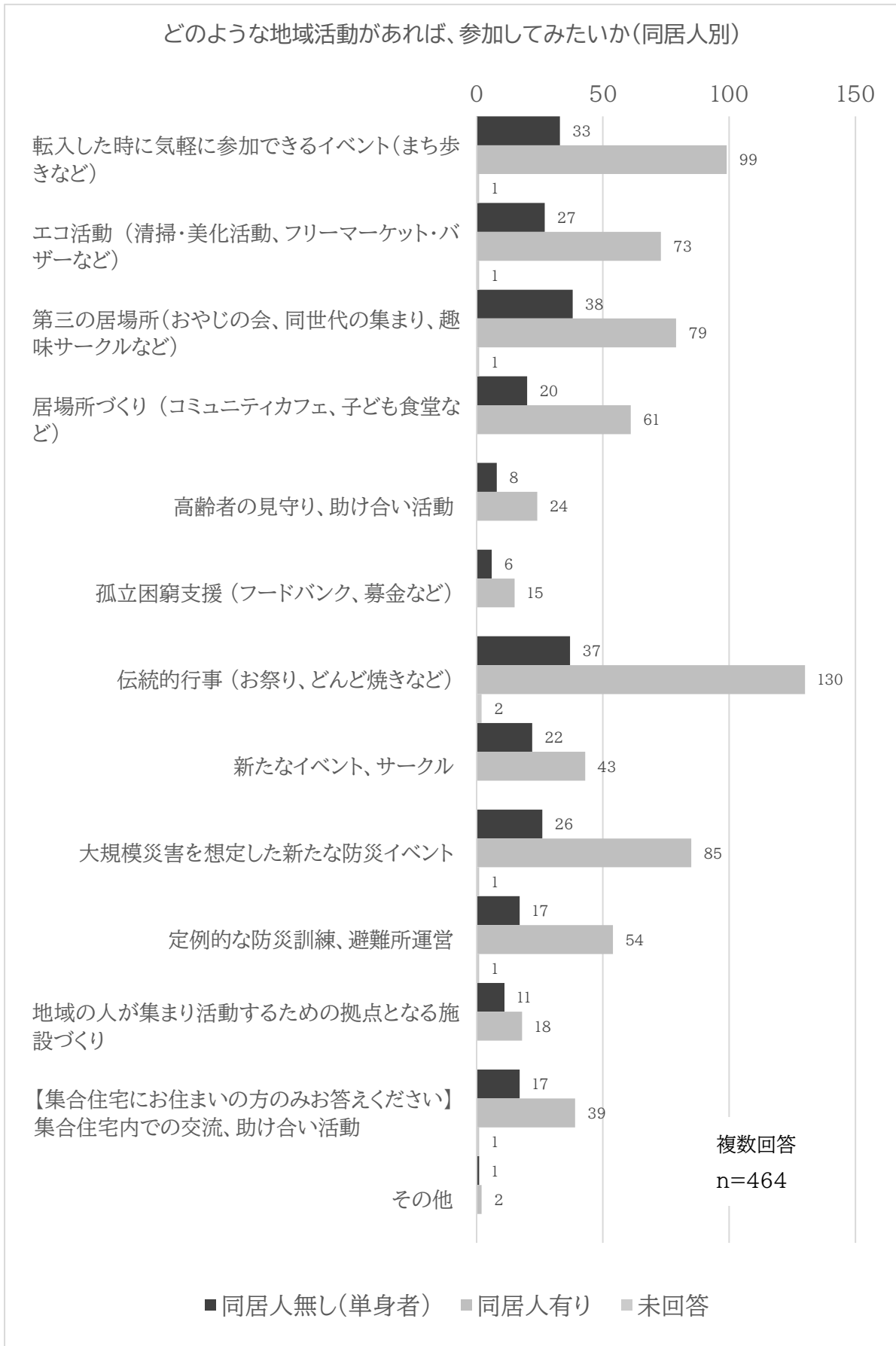
「どのような地域活動であれば、参加してみたいか」との設問で、最多は「伝統的行事」で約36%、次いで「転入した時に気軽に参加できるイベント」が3割近く、「第三の居場所」と「大規模災害を想定した新たな防災イベント」に関しては概ね4人に1人が上げており、「エコ活動」も2割超となりました。

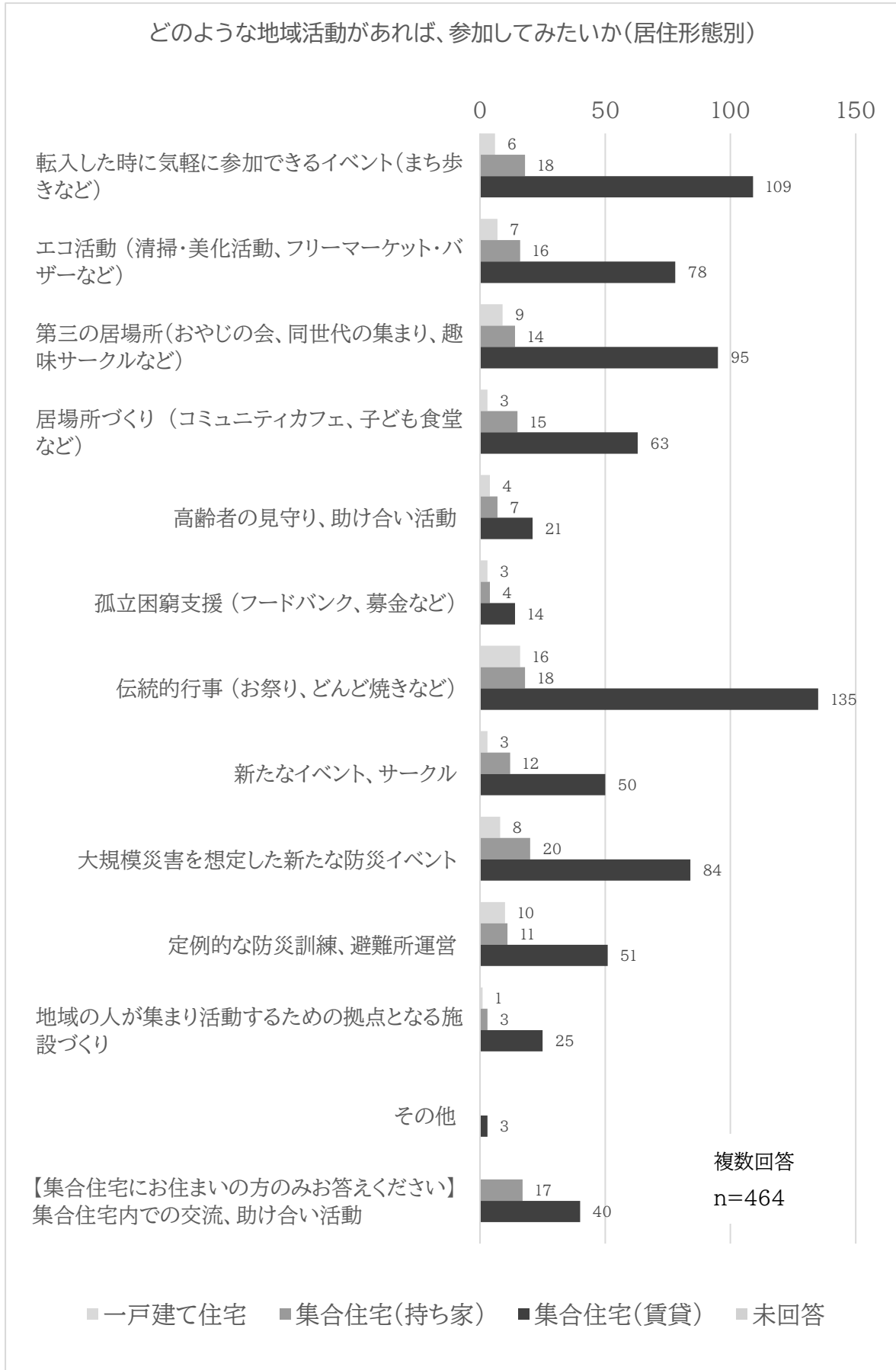
年代別では多少バラツキもありますが、同居人の有無や居住形態とも大きな違いは見られません。

集合住宅内での交流、助け合い活動についても1割超が参加意向を示しています。

## 年代別の分布（複数回答）

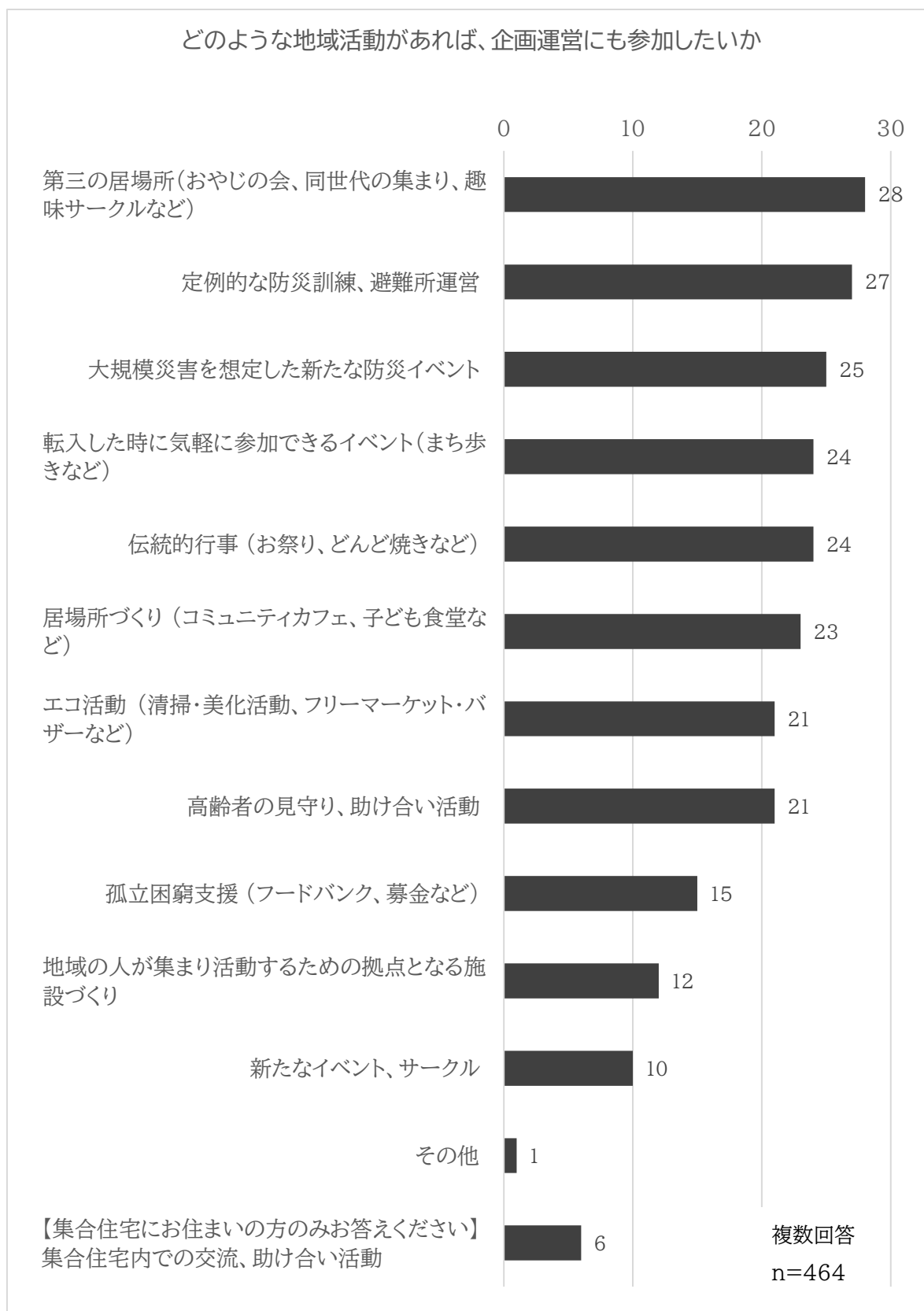
項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	未回答
伝統的行事（お祭り、どんど焼きなど）	1	57	61	23	16	9	2	
転入した時に気軽に参加できるイベント（まち歩きなど）		43	40	22	14	10	4	
第三の居場所（おやじの会、同世代の集まり、趣味サークルなど）		27	46	15	17	9	3	1
大規模災害を想定した新たな防災イベント		28	44	15	14	7	3	1
エコ活動（清掃・美化活動、フリーマーケット・バザーなど）		28	37	18	10	5	2	1
居場所づくり（コミュニティカフェ、子ども食堂など）	1	25	25	13	9	5	3	
高齢者の見守り、助け合い活動		7	6	6	8	4	1	
孤立困窮支援（フードバンク、募金など）		6	6	2	4	1	2	
新たなイベント、サークル		28	16	8	7	5	1	
定例的な防災訓練、避難所運営		16	29	10	10	3	3	1
地域の人が集まり活動するための拠点となる施設づくり		8	9	7	2	2	1	
その他		3						
総計	2	295	331	148	118	66	29	4







## 11.どのような地域活動があれば、企画運営にも参加してみたいかについて



「どのような地域活動があれば、企画運営にも参加したいか」との設問では、多くの項目に回答者の5%前後の人が参加意向を示す結果となりました。

関心の高い項目に関しては大きく分けて3つのテーマに分類されます。

一つは「第三の居場所」や「居場所づくり」、「高齢者の見守り、助け合い活動」など、つながりや助けあいの場作りに関するもの。

もう一つは「大規模災害を想定した新たな防災イベント」や「定期的な防災訓練や避難所運営」など、防災に関すること。

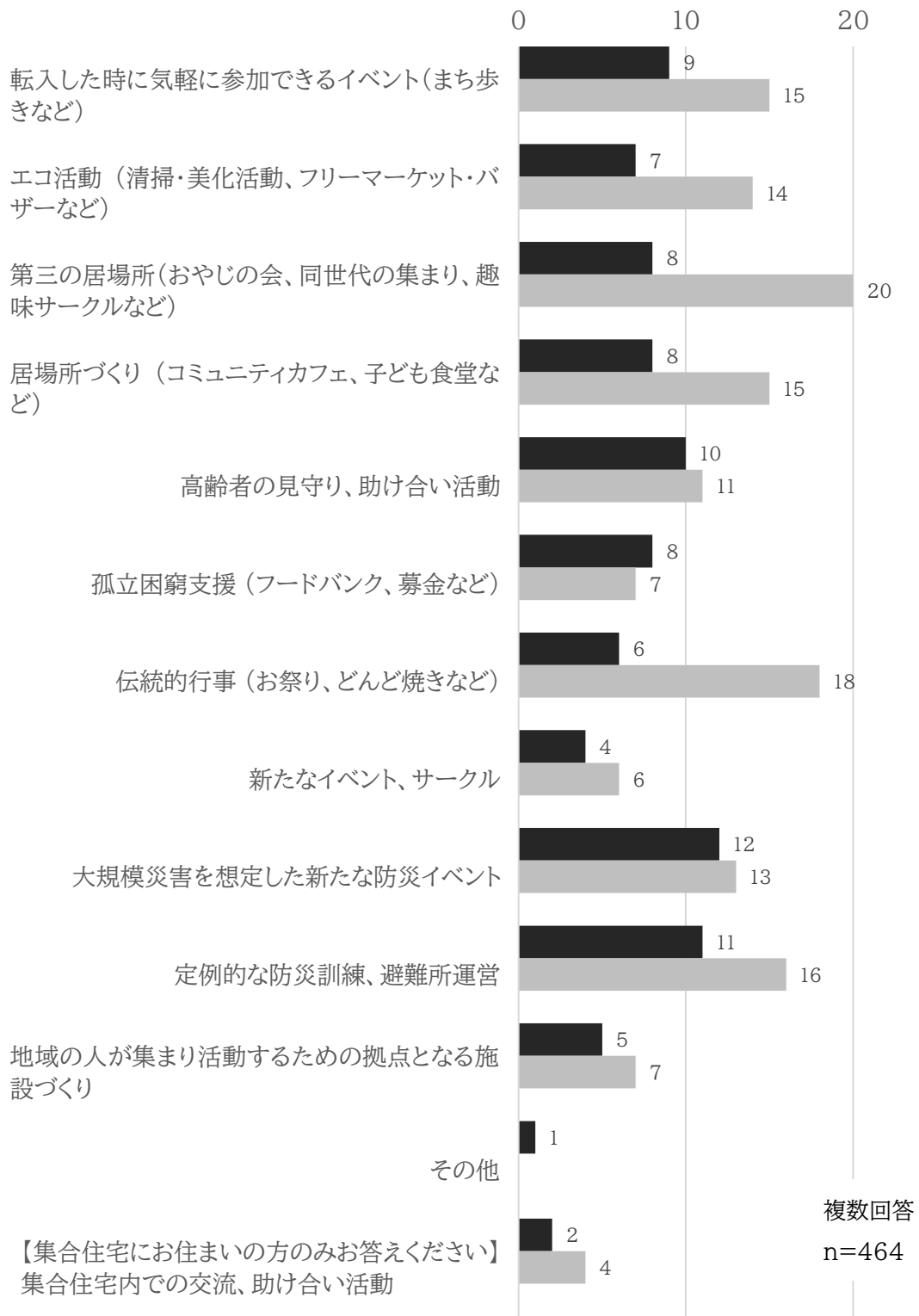
あと一つは、「転入時に気軽に参加できるイベント」や「エコ活動」、「伝統的行事」、「新たなイベント、サークル」など、新たな人とのつながりを作るイベントです。

こうした項目において年代、同居人の有無、居住形態による意欲の差も見られません。

## 年代別の分布（複数回答）

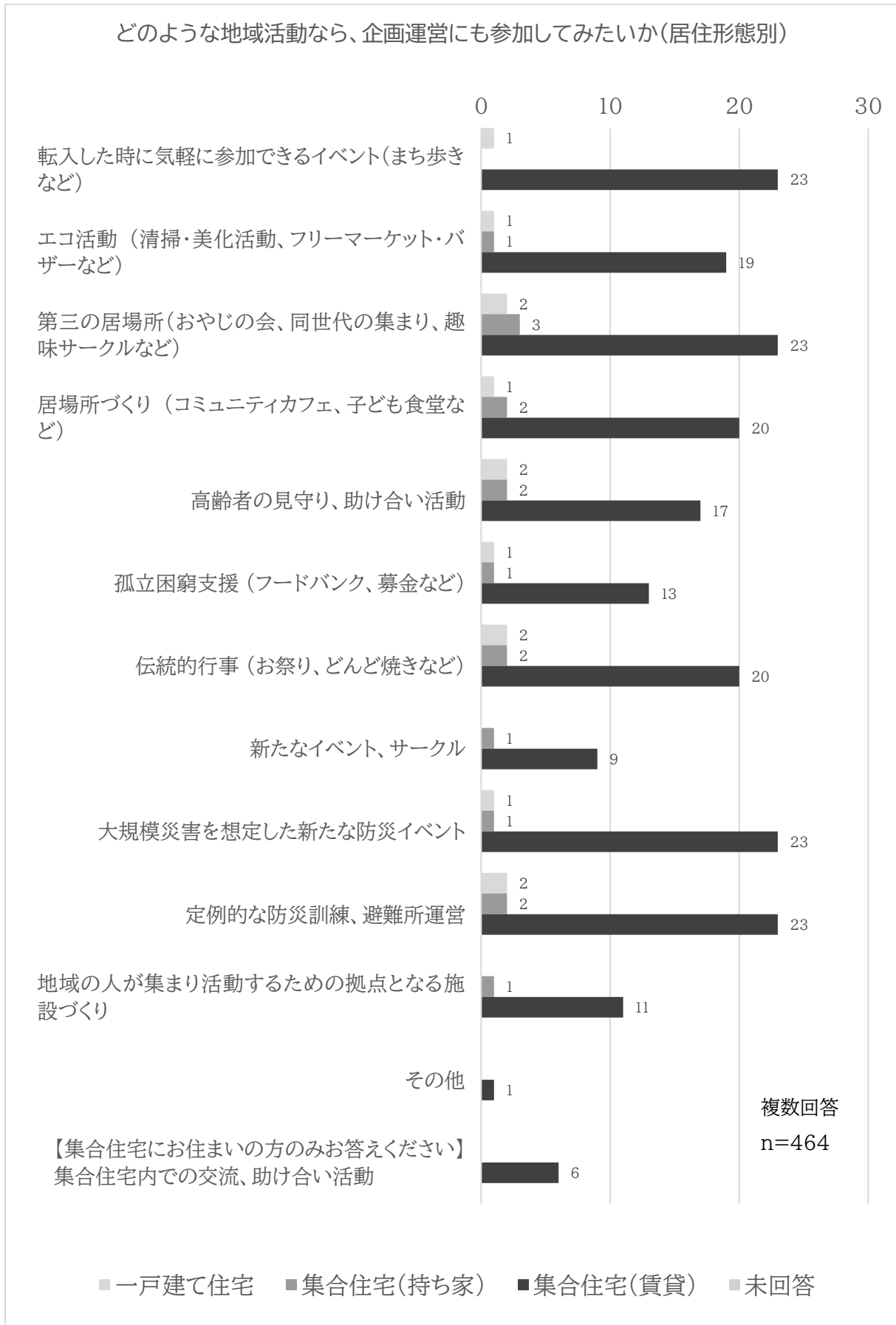
項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	未回答
転入した時に気軽に参加できるイベント(まち歩きなど)		8	5	6	2	2	1	
エコ活動（清掃・美化活動、フリーマーケット・バザーなど）		10	4	5	2			
第三の居場所(おやじの会、同世代の集まり、趣味サークルなど)		9	10	6	2	1		
居場所づくり（コミュニティカフェ、子ども食堂など）		11	8	3				1
高齢者の見守り、助け合い活動		5	5	5	3	2	1	
孤立困窮支援（フードバンク、募金など）		6	4	3		1	1	
伝統的行事（お祭り、どんど焼きなど）		7	8	8				1
新たなイベント、サークル		8	2					
大規模災害を想定した新たな防災イベント	1	8	7	6	2		1	
定例的な防災訓練、避難所運営	1	11	9	4		2		
地域の人が集まり活動するための拠点となる施設づくり		7	2	2		1		
その他		1						
【集合住宅にお住まいの方のみ】 集合住宅内での交流、助け合い活動		3	1	2				
総計	2	94	65	50	11	9	4	2

どのような地域活動なら、企画運営にも参加してみたいか(同居人別)



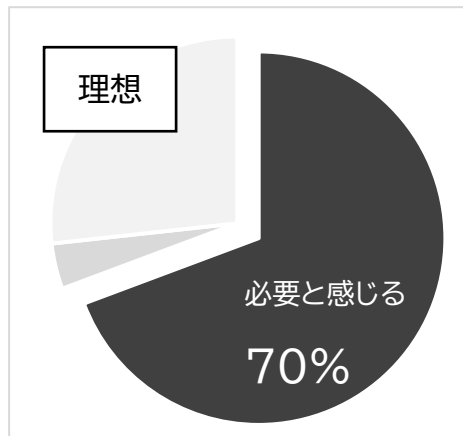
複数回答  
n=464

■同居人無し(単身者) ■同居人有り ■未回答

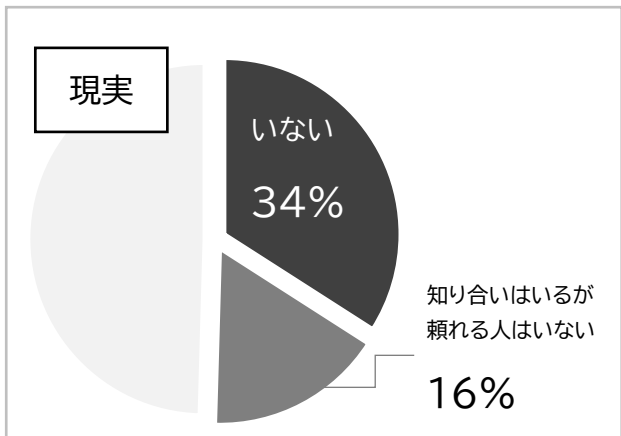


アンケート分析(まとめ)

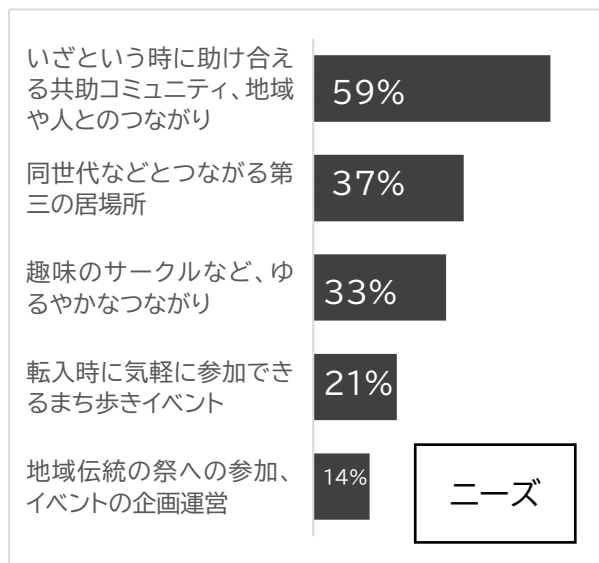
困った時に助け合える地域の絆  
人とのつながりの必要性



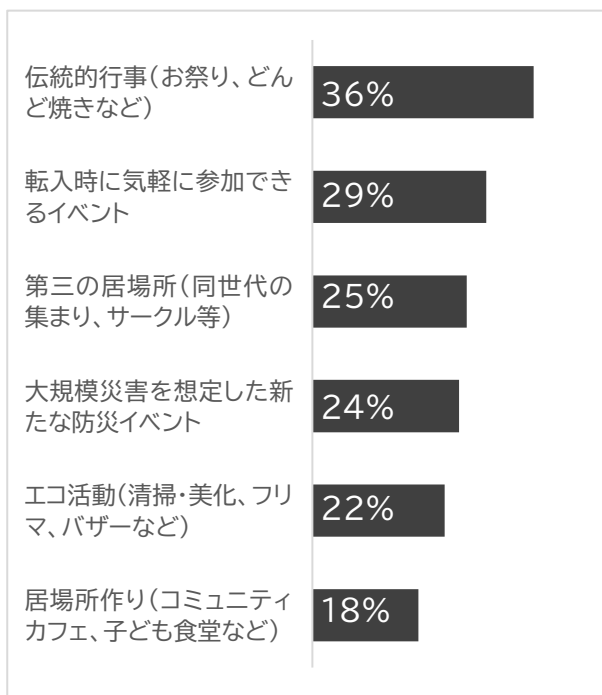
災害時など、いざという時にすぐに  
駆けつけてくれる人、頼れる人が近くいるか



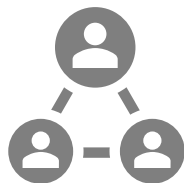
どんな助けあい、つながりを求めているか



どんな地域活動があれば参加したいか

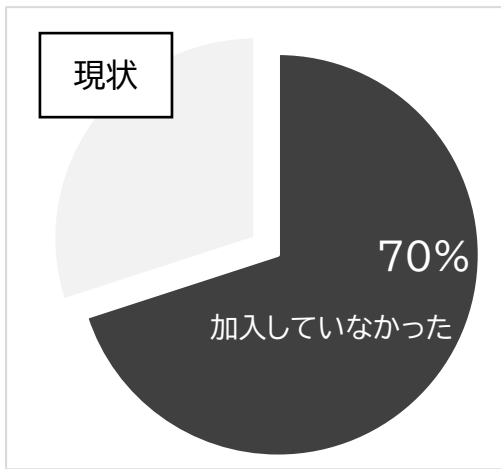


企画運営にも参加してみたいか

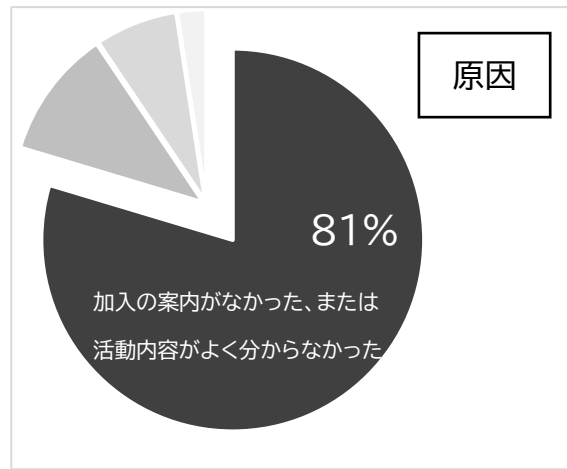


同世代の集まりや趣味サークルなど「第三の居場所」づくりや大規模災害を想定した避難所運営や新たな防災イベントなどの企画運営へもそれぞれ5%前後の人が参加意向を示しました

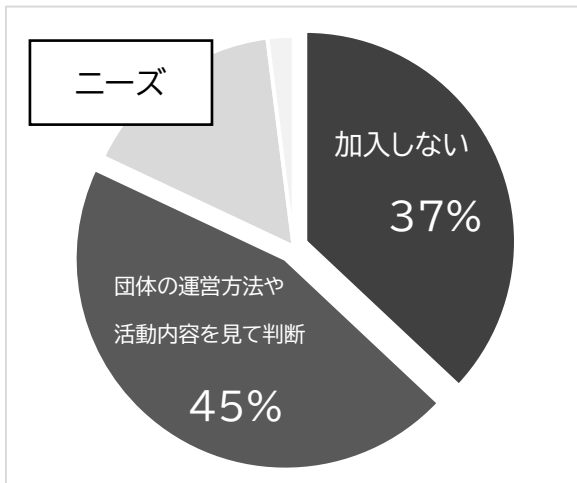
自治会・町内会へ加入していたか



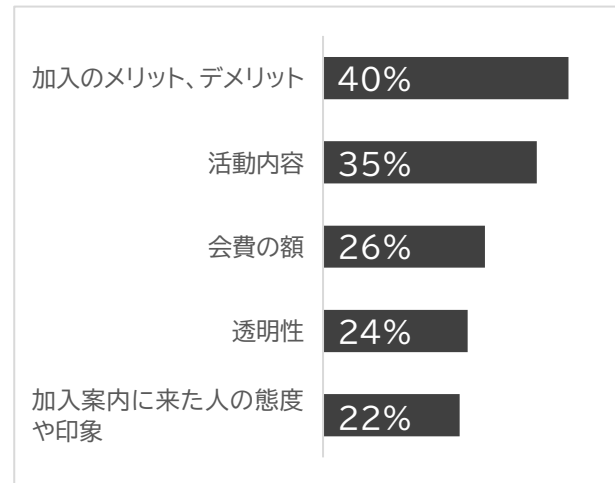
加入していなかった理由



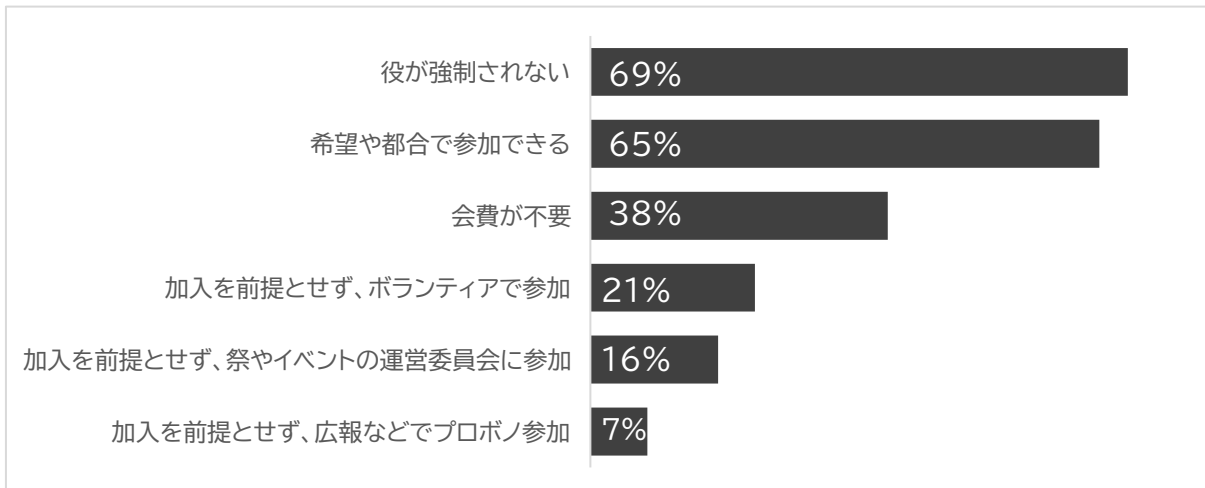
今回の転入先では加入するか



加入を検討する際、重視する項目



どのような運営方法であれば、加入や参加をしたいか



## アンケート分析(総評・意見付記)

### 〔総評〕

今回の調査では、都筑区において特に自治会・町内会の加入率が低い3つのターゲット、20代、30代の「若い世代」や「単身者」、「集合住宅(賃貸)」と他との意識やニーズの違いを把握するため、年代別、同居人の有無、居住形態別の分析も行いました。

その結果を見ると、数値に多少の開きは見られたものの、意外にも意識やニーズに関する傾向に大きな違いは見られないことが分かりました。

「困った時に助け合える地域の絆、人とのつながりの必要性」については20代、30代の「若い世代」でも7割前後、「単身者」や「集合住宅(賃貸)」においても6割を超えました。

ただ、求める理想と現実にはギャップがあり、「災害時など、いざという時にすぐに駆けつけてくれる人、頼れる人が近くにいる」という人は約半数に留まります。

自治会・町内会に関しては前の居住地では7割が加入していませんでしたが、加入していなかった理由は8割超が「加入の案内がなかった、または活動内容がよく分からなかったから」でした。

一方、今回の転居先で「加入する」は約16%、「加入しない」は約37%で、最多は「団体の運営方法や活動内容を見て判断する」の約45%となりました。

今回、「加入を検討する際に重視する項目」や「どんな地域活動があれば参加や企画運営にも携わりたいか」も見えてきました。その結果、住民の側には様々なニーズがあり、内容によっては高い関心、参加意向を有していること。課題は住民が求める地域活動や参加のあり方と現在の自治会・町内会の運営や活動と乖離していること。それ以前にそもそも必要な情報が相手に届いていないこと、アプローチの不足や欠如が鮮明になりました。

「どのような運営方法であれば、加入や参加をしたいか」については「役が強制されない」と「希望や都合で参加できる」がいずれも約7割、加入を前提としないボランティアや運営委員などでの参加も2割前後となりました。

自治会・町内会の多くは昭和に設立され今に至りますが、この間、運営方法や活動内容がほとんど変わらない自治会・町内会も少なくありません。しかし、時代は平成、令和と移り変わり、社会のあり方や住民のニーズも昭和の頃とは大きく変化しています。

令和もすでに5年目、これからの地域社会、コミュニティで求められる自治会・町内会の役割とは何かを問い直し、これまでのあり方に囚われるのではなく、むしろゼロベースで今の運営方法や活動内容を見直し、こうしたニーズの受け皿となることでその意義や存在感を高めていくことこそが、持続可能な自治会・町内会に再生させる唯一の道といえます。



## 〔意見付記〕

今回の調査でやや特徴的なターゲットとして20代と50代の姿が浮かび上がりました。

20代については「災害時など、いざという時にすぐ駆けつけてくれる人、頼れる人が近くにいる」で約55%だったのに対し、30代は約47%。「同居人あり」の比率は、20代の約68%よりも、30代の方が約73%と高い中、この差はどこから生じているのか。同じ学校に通う学生同士のつながりやSNS(ソーシャルメディア)などが影響しているものなのか。

20代は前の居住地で約8割が自治会・町内会に加入していませんでしたが、今回の居住地で加入しないは4割弱に留まります。「助け合いやつながり」や「地域活動」への関心も決して低くありません。自治会・町内会のアプローチによっては自治会・町内会に加入または活動の担い手として参加する可能性も十分にあり得ると考えられます。

一方、50代については今回、サンプル数が非常に少ないため、あくまで参考データに留まりますが、「同居人なし」の比率は20代と同じ約32%、「災害時など、いざという時にすぐ駆けつけてくれる人、頼れる人が近くにいる」も約41%と他の年代に比べて低くなっています。

2020年の生涯未婚率は男性約28%、女性約18%となっており、こうしたことも影響しているか。50代に関しては、80代の親が50代の生活を支える8050問題もいわれていますが、この年代は自らの老後と親の介護が視野に入ってくる年代、地域とのつながりを考え始める時期でもあります。

一般的に自治会・町内会の事業活動は30~40代の子育て世代に訴求する子ども向けと加入率が高い高齢者向けが中心で、単身者のニーズに沿った事業活動は非常に限られたもの、あるいは空白地帯となっている自治会・町内会も少なくありません。

加入促進策においてもどうしても子育て中の30~40代に目が向きがちですが、実はこの世代は子育てや仕事などで最も忙しい年代でもあります。むしろ新たな担い手という面では、これまでほとんどアプローチしてこなかったこうした穴場の年代に目を向け、そのニーズに沿った事業活動や参加方法を提案し、訴求していくことが有効な手段といえるかもしれません。

中でも20代は都筑区において転入者が多い年代でもあります。同じ横浜市神奈川区にはIT企業に勤める20代の女性が会長に就任して活躍している例もあります。

